



こころを育む総合フォーラム全国運動

# 2009年度 活動のご案内

&

子どもたちの“こころを育む活動”

# 受賞事例

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は、  
下記企業からのご賛同・ご支援をいただき活動しております。

東海旅客鉄道株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
パナソニック株式会社  
株式会社読売新聞東京本社

こころを育む総合フォーラム 全国運動に関するお問い合わせ



財団法人 パナソニック教育財団内  
こころを育む総合フォーラム  
全国運動事務局

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル 6階  
TEL 03-5521-6100 FAX 03-5521-6200  
URL <http://www.kokoro-forum.jp/>

●「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は文部科学省の後援を受けています。

# 「こころを育む総合フォーラム」より

「こころを育む総合フォーラム」は、多発する残虐な事件や組織の不祥事、親子関係の希薄化など昨今の社会事象から見てきた日本人の心の荒廃に危機感を抱き、はじめてかけたいとの思いを共有する有識者16名が集い、2005年4月に設立されました。設立以来、家庭・学校・地域・企業などの視点から討議を重ね、07年1月に提言書をまとめ、発表しました。

そして08年より、この提言を具体化するきっかけづくりとして、全国各地ですでに実践されている、子どもたちの「こころを育む」事例を募集しました。優れた活動を支援し紹介することで、「こころを育む」運動の輪を全国に広げて行きたいと考えたのです。

第二回となる今回は、全国から145件の多岐にわたる活動が寄せられました。まず、各地域のPTA・学校・NPO関係者などによるブロック審査を行い、「こころを育む総合フォーラム」有識者メンバーによる本部審査を経て、各賞を選出いたしました。そして、10年2月13日に開催したシンポジウムでは、受賞団体・個人の方を招いて表彰を行い、全国からお集まりいただいた多くの方に、優れた活動をご紹介することができました。またそれは、実践者同士で意見交換を行ったり、交流を深めていただく機会にもなりました。

本書では、第二回受賞全16事例をご紹介すると共に、第一回受賞全15事例の現在における活動についてもご紹介いたします。第一回である08年度に受賞された皆さんは、さらに活動の輪を広げたり、新たな領域に踏み出したりと、現在も「こころを育む」活動への取り組みを続けています。そのすべてが、子どもたちと真摯に向き合いながら「こころを育む」ことを実践しており、さらに進める工夫・広げる工夫・続ける工夫に満ちたすばらしい取り組みです。本書が、受賞団体・個人をはじめ地道に活動続ける方々へのエールとなり、また新たに活動へ参加や支援を考えている方々にとって一歩を踏み出すきっかけとなれば、「こころを育む総合フォーラム」として、こんなにうれしいことはありません。

## 「こころを育む総合フォーラム」有識者メンバー (2010年6月2日現在) (敬称略・50音順)

|                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 安西祐一郎(慶應義塾大学 教授)      | 永井多恵子(前 日本放送協会 副会長)      |
| 石井 幹子(石井幹子デザイン事務所 主宰) | 中村 邦夫(パナソニック 会長)         |
| 葛西 敬之(東海旅客鉄道 会長)      | 中村 桂子(J T生命誌研究館 館長)      |
| 金澤 一郎(日本学術会議 会長)      | 野依 良治(理化学研究所 理事長)        |
| 佐々木 毅(学習院大学 教授)       | 本田 和子(お茶の水女子大学 名誉教授)     |
| 滝鼻 卓雄(前 読売新聞東京本社 会長)  | 三村 明夫(新日本製鐵 会長)          |
| 張 富士夫(トヨタ自動車 会長)      | 山折 哲雄(国際日本文化研究センター 名誉教授) |
| 遠山 敦子(パナソニック教育財団 理事長) | 鷲田 清一(大阪大学 総長)           |

## CONTENTS

目次

### 活動のご案内

「こころを育む総合フォーラム」からの  
「七つの問い」 3

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」  
とは? 5

### 2009年度

・有識者会議 7

・全国キャラバン 8

・シンポジウム 9

### 受賞事例紹介

#### ◆2009年度受賞事例:団体の部

##### ●全国大賞

食育ミュージカルによる豊かなこころを育む活動  
山形県立置賜農業高等学校 演劇部(山形県) 11  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●ブロック大賞(関東ブロック)

いじめ防止プログラム「スクール・パティ」活動  
NPO法人 湘南DVサポートセンター(神奈川県) 15  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●ブロック大賞(中部ブロック)

おたがいを知ろう...自然体験を通じたふれあい交流  
NPO法人 福寿草の郷(石川県) 17  
【活動領域:学校・地域】

##### ●ブロック大賞(近畿ブロック)

歌って、踊って、ドラムでハッピー!  
大阪府立豊中支援学校 D.D.D.クラブ  
(ドラム、大好き、大集合)(大阪府) 19  
【活動領域:家庭・学校・地域・企業】

##### ●ブロック大賞(中国・四国ブロック)

じゃがいも大作戦  
城北公民館(島根県) 21  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●ブロック大賞(九州・沖縄ブロック)

平和・環境・社会問題をテーマとする地域活動とミュージカルの公演  
児童劇団つばさ(福岡県) 23  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●奨励賞(北海道・東北ブロック)

めざせ!心キンクマン!!心を育む継続的ワークショップ  
ハート&アート空間「BE0」(宮城県) 25  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●奨励賞(関東ブロック)

ピースバックプロジェクト  
社団法人 ガールスカウト日本連盟(東京都) 26  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●奨励賞(関東ブロック)

エコキッズ探検隊2009  
一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協議会(東京都) 27  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●奨励賞(中部ブロック)

どの子も育つ「頭で学ぶ・体で学ぶ・こころで学ぶ」  
はなまる地球探検隊(長野県) 28  
【活動領域:家庭・学校・地域・企業】

##### ●奨励賞(近畿ブロック)

サステナブル社会の実現を目指すための  
シチズンシップや行動力を養うための学習  
三重県伊勢市立五十鈴中学校(三重県) 29  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●奨励賞(中国・四国ブロック)

自然環境を最大限に活かした冒険遊び場づくりへの挑戦  
~人と人がつながり育ち合う 森の冒険ひみつ基地~  
備前プレーパークの会(岡山県) 30  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●奨励賞(九州・沖縄ブロック)

子どもといっしょにエコプロジェクト  
(ごきげんごはんを作ろう)  
食から環境を考える未来の会(福岡県) 31  
【活動領域:家庭・学校・地域】

#### ◆2009年度受賞事例:個人の部

##### ●個人賞

夜間定時制高校での奉仕の授業実践  
松浦 明博(東京都) 32  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●奨励賞

「歌と遊びの会」による文化の伝承活動  
富樫 俊江(東京都) 33  
【活動領域:家庭・学校・地域】

##### ●奨励賞

自分史を語り日本人の心の遺産を伝える活動  
佐藤 重一郎(京都府) 33  
【活動領域:家庭・学校・地域】

●2008年度受賞者活動報告 34



受賞事例紹介ページでは、「活動領域」と「活動を通して育むことができる3つのところ(くわしくは7ページ)」をアイコンで表示しています。

#### ●活動領域

🏠 家庭 🎓 学校 🌳 地域 🏢 企業

#### ●3つのこころ

👤 自分に 向かうこころ  
👥 他者に 向かうこころ  
🌍 社会に 向かうこころ

# 子どもたちのためにできること

## 「こころを育む総合フォーラム」からの 「七つの問い」

「こころを育む総合フォーラム」では、子どもたちのこころを育む活動のヒントとなる「七つの問い」を呼び掛けています。  
家庭・学校・地域・企業など、子どもたちを取り巻くすべての場所で、きっとできることがあるのではないのでしょうか。

### 家庭



- 子育てはみんなの手で
- 大事にされているという体験、それが信頼の基礎
- 子育てにもっと高い社会的評価を
- 母親を孤立させないための仕組みを
- 子育てを楽しみと感ぜられる環境を

#### 家庭での育みを見なおすための七つの問い

- 1 幼い子どもに、親(保護者)は、たっぷり愛情をそそいでいるだろうか?
- 2 子どものよい点をしっかり誉めて、自信をもたせているだろうか?
- 3 子育ての不安、ストレスへの対応は、家族、親戚、近隣、保育所などでともに担われているだろうか?
- 4 子育ては苦勞もあるが、幼いのちを育む喜びと楽しみがあるということが、きちんと認識されているだろうか?
- 5 親(保護者)の姿勢が、子どものこころを創っているという自覚があるだろうか?
- 6 家庭で、子どものこころからよい生活習慣を身につけさせているだろうか?
- 7 子どもは社会のみんなが育てるもの、家庭はそのなかでもっとも重要なものだとして認識しているだろうか?

### 学校



- 学校は社会性を身につける場所
- ともに力を合わせて学校をつくるという態度を
- 「いじめ」をめぐって
- 学校をもっと開いていこう
- 社会の一人ひとりが人を育む気概を

#### 学校での育みを見なおすための七つの問い

- 1 学校は、子どもたちにしっかりと学力を身につけさせ、先生や友人との関係をつうじて対人関係の基本を育てているだろうか?
- 2 教師は、一人ひとりの子どもに自信をもたせる努力をしているだろうか?
- 3 学校では、道徳教育を魅力的で説得的なものにするよう、工夫をしているだろうか?
- 4 道徳教育の時間だけでなく、学校全体で「こころを育む」という姿勢をとっているだろうか?
- 5 学校では、「こころを育む」ための具体的なアクションをとっているだろうか?
- 6 学校と親(保護者)とは、たがいの立場を尊重・理解し、協力しあう関係にあるだろうか?
- 7 学校と地域の大人たちは、一致協力して、子どもたちの居場所、子どものための相談場所を設けているだろうか?

### 地域



- 子どもが自然に育つ場
- みんなで協同して事にあたる力を
- 地域社会の新たな役割
- 子どもの視点に立ったまちづくりを

#### 地域社会における育みを考えるための七つの問い

- 1 地域のだれもが、子どものこころを育むという姿勢で、子どもに接しているだろうか?
- 2 地域として独自の役割を考え、学校とセットで、子どもたちの学習環境をつくっているだろうか?
- 3 地域社会は、子どもたちが自立して力強く生きていく力を育てているだろうか?
- 4 地域のなかに子どもたちの居場所をきちんと設けているだろうか?
- 5 地域教育プログラムの充実と活性化を図っているだろうか?
- 6 地域活動への参加を子どもたちに促すための施策を実施しているだろうか?
- 7 子どもたちの視点に立ったまちづくりをしているだろうか?

### 企業



- 文化としての「育み」
- 思いどおりにならないこと
- 子どもたちを苛む(わたし)への問い
- 企業も地域における子どもたちの「育み」をともに担おう
- 情報社会という環境

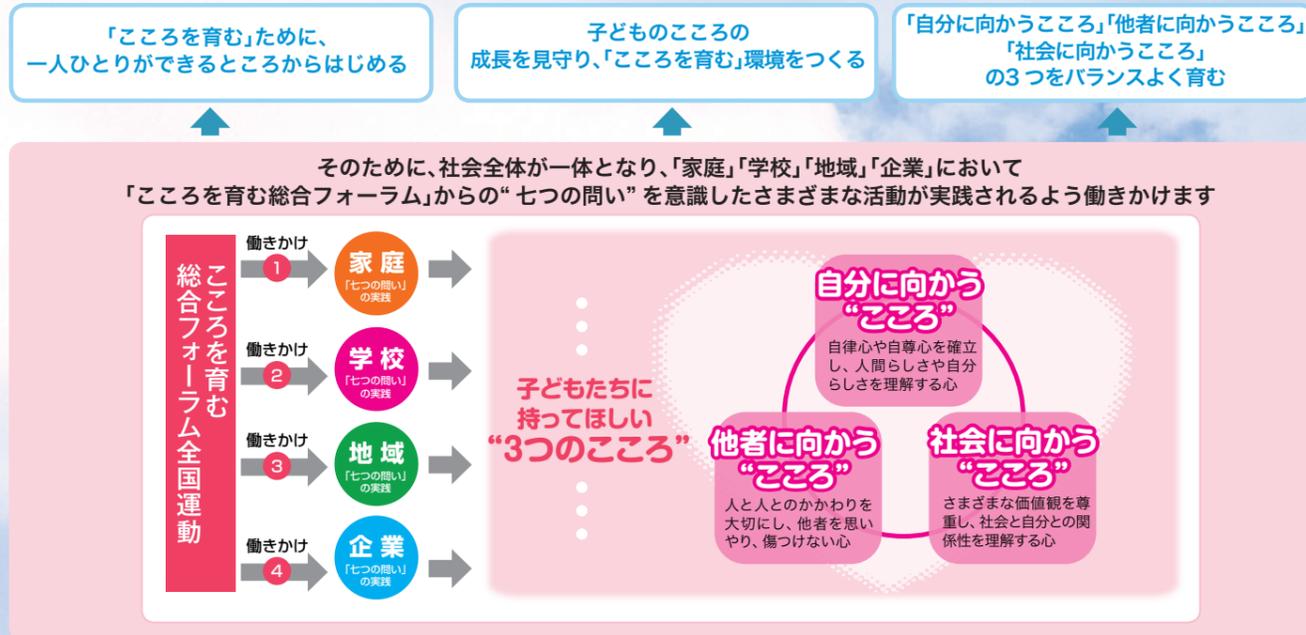
#### 企業・メディアによる育み支援を考えるための七つの問い

- 1 企業は、その使命と役割を自覚した行動ができているだろうか?
- 2 企業人は、みずからが同時に市民・生活者であることの自覚を十分にもっているだろうか?
- 3 企業人一人ひとりが、同時に市民・生活者として、よりよい社会づくりに積極的に関与しているだろうか?
- 4 企業みずからが、市民としての社員教育に積極的に取り組んでいるだろうか?
- 5 メディアは、子どもたちに学びや仕事の意義や楽しさを、きちんと伝えているだろうか?
- 6 メディアは、地域のすぐれた教育活動の事例を、進んで報道しているだろうか?
- 7 わたしたちの社会は、高度情報化社会が子どもたちの対人関係に与える影響を考えた対応をしているだろうか?

## ■なぜ、今、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけるのか

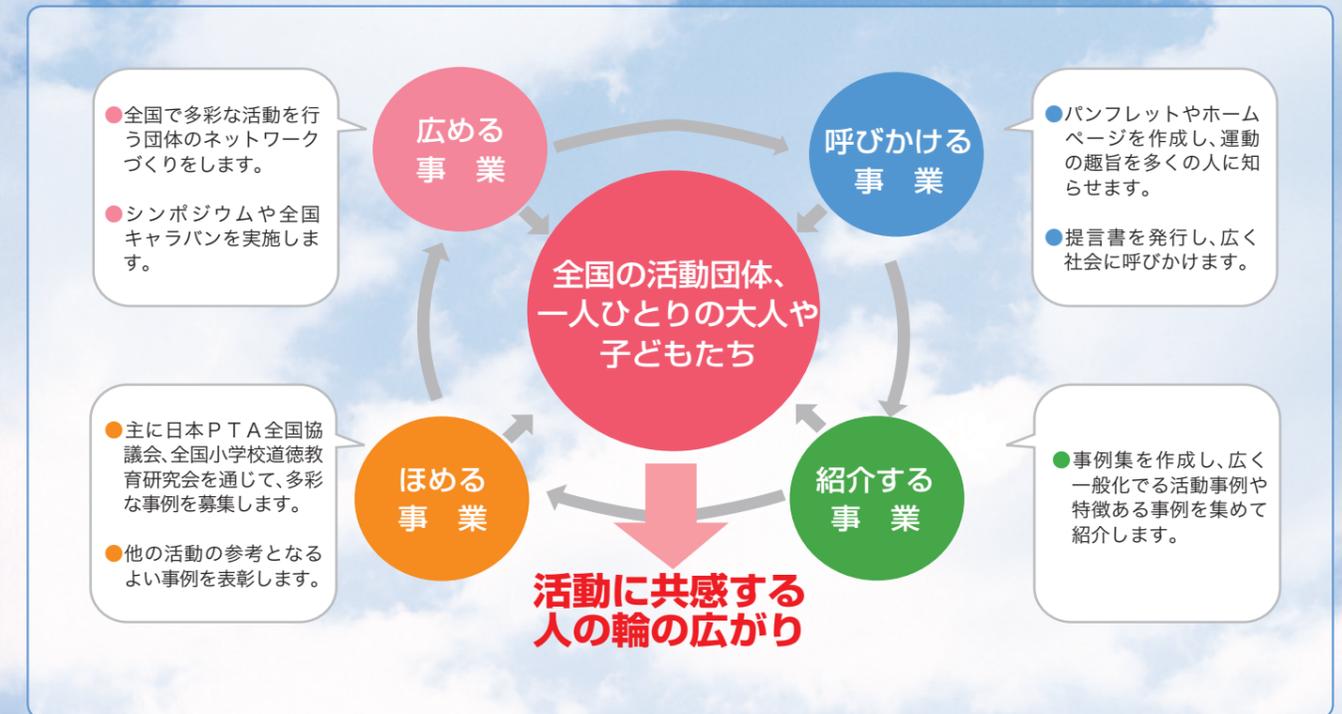
想像を絶する残虐な事件、組織の不祥事、人として守るべきマナーの欠落。私たち日本人が本来持っていたはずの素晴らしい倫理感はどこへ行ってしまったのでしょうか。このような状況に危惧を持ち、未来を担う子どもたちのために、個人や団体がさまざまな活動をされている方がいます。「こころを育む総合フォーラム」では、そのような活動を応援し、全国に広げるために、そして子どもたちの健やかな未来をみんなで考えるために、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけています。

## ■全国運動のねらい



## ■全国運動を実施する主な事業とは

全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む活動」を支援するために「呼びかける事業」「紹介する事業」「ほめる事業」「広める事業」の4つの事業を展開いたします。



### ■呼びかける事業

#### 事業のねらい

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」の趣旨をより多くの人に知らせ、共感する個人・団体を増やすことと同時に、広く社会一般に問題提起をします。

#### 事業内容

パンフレット、ホームページ、新聞等のさまざまなメディアを活用しての広報を実施します。

- 1 社会全般への呼びかけ**  
有識者会議<sup>※</sup>での検討内容を提言書として発信し、社会への呼びかけや問題提起をします。  
※P2にメンバーを掲載しています。
- 2 大人への呼びかけ**  
子どもたちのこころを育む活動を広く募集し、大人全般に呼びかけをします。
- 3 子どもへの呼びかけ**  
子どもから、こころの育みにまつわる体験談を募集し、エピソード集として子どもたちに呼びかけをします。

### ■紹介する事業

#### 事業のねらい

全国各地で実践されているさまざまな子どもたちのこころを育む活動について、より多くの方々に知らせ、新たにそれらの活動へ参加したり支援をするきっかけを作ったり、活動の改善や新しい領域へ活動の輪を広げる機会を提供します。

#### 事業内容

「ほめる事業」に応募いただいた、全国の多彩な実践活動例の中から特に、子どもたちのこころを育む活動であり、進める・広げる・続ける「3つの工夫」が認められるなど、他の活動の参考となる事例を紹介するため、事例集を作成します。

- 1 事例集**  
優秀事例に選出された活動について、目的や内容、主な実践プログラムをはじめ、参加した子どもたちの声、進める・広げる・続ける「3つの工夫」など、実践者の方々への取材を元に、具体的にわかりやすく紹介します。

### ■ほめる事業

#### 事業のねらい

全国各地で実施されている活動の中から、他の活動の参考となるよい活動を表彰し、運動の元気づけをします。

#### 事業内容

全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む活動」を自薦・他薦を問わず、活動の大・小や個人・団体も問わず募集し、審査の上、表彰します。

- 1 応募できる活動**  
下記の「3つの工夫」のいずれかが認められること
  - 進める工夫** 活動の対象や目的が明確で、進め方における工夫・努力がある
  - 広げる工夫** ネットワークを作り、活動を広げるための工夫・努力がある
  - 続ける工夫** 活動を継続するための仕組み・工夫がある
- 2 表彰の内容**

|      |        |                             |                |
|------|--------|-----------------------------|----------------|
| 団体の部 | 全国大賞   | 1件                          | 表彰状・盾・賞金 100万円 |
|      | ブロック大賞 | 全国大賞が選出されたブロックを除き、各ブロックから1件 | 表彰状・盾・賞金 30万円  |
| 個人の部 | 奨励賞    | 若干数                         | 表彰状・記念品        |
|      | 個人賞    | 若干数                         | 表彰状・記念品        |
| 個人の部 | 奨励賞    | 若干数                         | 表彰状・記念品        |
|      | 個人賞    | 若干数                         | 表彰状・記念品        |

### ■広める事業

#### 事業のねらい

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めるために、運動に関心のある個人、また団体同士の交流を図り、情報交換などを促すことにより、運動のネットワーク化を進めます。

#### 事業内容

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めると同時に、表彰された活動を紹介し、また個人・団体同士の全国規模のネットワーク作り、情報交換の場として「シンポジウム」「全国キャラバン」を実施します。

- 1 シンポジウム (年1回 東京開催予定)**  
全国から実践者を招き、優秀事例の表彰と紹介、有識者メンバーとのパネルディスカッションなどを通して、情報交換を行ったり交流を深めるために「シンポジウム」を開催します。
- 2 全国キャラバン (年2~3ヶ所開催予定)**  
「全国キャラバン」として、「こころを育む総合フォーラム」有識者メンバーが各地域を訪れ、地域で活動を実践しているの方々を招いてパネルディスカッションなどを行い、実践者と交流します。

## ■有識者会議

「こころを育む総合フォーラム」では、現代社会における「こころを育む」環境づくりのためにさまざまな活動を進めています。2009年度は、各界を代表する有識者メンバーによるブラックファースト・ミーティング、シンポジウムや全国キャラバンを開催し、講演をまとめた書籍『いま、こころを育むとは』を発行しました。そして、この提言を具体化するきっかけづくりとして、各地で実践されている子どもたちの「こころを育む」活動を募集、表彰し、広く紹介する全国運動を展開しています。フォーラムでは、こうした働きかけを総合的、全国的な取り組みの契機にして、「こころを育む」全国運動の輪を広げていきたいと考えています。



ブラックファーストミーティング風景

### 有識者会議 ブラックファースト・ミーティング

05年のフォーラム設立以来、有識者メンバーによるブラックファースト・ミーティング（有識者会議）が続けられています。ゲストスピーカーを招きながら、日本人の心のありようについて、家庭・学校・地域・企業などの視点から討議を重ねています。

## 2009年度 開催記録

### 第21回 開催日：2009年4月24日

- ゲストスピーカー  
大阪医科大学小児科学教室准教授  
**田中英高氏**
- テーマ  
子どもの心を守るために  
『心身症の子どもの心と家族の物語から学ぶ：現代人の心の葛藤、その克服』  
子どもの心身症は、子どもの身体の特徴とさまざまな心理社会的なストレスが関与して発症する。それらをつぶさに見ていくことで、現代の子どもたちの身体と心の問題が見えてくる。



ゲストスピーカーの田中英高氏

### 第23回 開催日：2009年10月22日

- ゲストスピーカー  
小説家 **平野啓一郎氏**
- テーマ  
「個人主義」から「分人主義」へ  
従来の「分割不可能なもの=個人」に対して「分割可能なもの=分人」へ。「分人主義」は、対人関係や関係空間ごとに、自然と分化してくる自分を肯定的にとらえようという発想だ。



ゲストスピーカーの平野啓一郎氏

### 第22回 開催日：2009年7月10日

- ゲストスピーカー  
関西大学国際部准教授  
**アレクサンダー・ベネット氏**
- テーマ  
「残心」  
武道において、何があっても興奮せずに平常心でいる、感情を抑えるという「残心」。日常生活においても「残心」があれば、人間として成長できる。人間形成の道といってもいいのではないか。



ゲストスピーカーのアレクサンダー・ベネット氏

### 第24回 開催日：2009年12月8日

- 討議概要  
山折座長より今後のフォーラムのあり方・子どもたちの「こころを育む」活動
- 表彰のための最終審査

全国から募集した「こころを育む」活動の最終審査。工夫に満ちたさまざまな活動事例を前に活発な意見交換が行われ、全国大賞として満場一致で山形県立置賜農業高校 演劇部を選出。

## ■全国キャラバン

フォーラム有識者メンバーが各地域を訪れ、実践者の方々と交流する全国キャラバンを開催しています。地域で活動を実践されている方を招いてパネルディスカッションなどを行い、「こころを育む」取り組みを各地域に広げていきたいと考えています。

### こころを育む総合フォーラム 2009 in 浦安(千葉県)

日時：8月29日  
会場：浦安市文化会館大ホール

内容：山折座長の「こころを育むとは～危機と不安のなかで生きる～」と題した基調講演、浦安市の子どもたちの生活についての基調報告の後、「夢と希望を持ち、豊かな心を育む環境づくり」をテーマにパネルディスカッションを行いました。会場には約800人の参加者が集まり、心を育む環境づくりのための議論に耳を傾けました。

#### 1. 基調講演

山折哲雄（国際日本文化研究センター名誉教授）  
テーマ「こころを育むとは～危機と不安のなかで生きる～」

#### 2. 基調報告

浦安市の児童・生徒の実態／浦安市の学校教育支援団体活動紹介

#### 3. パネルディスカッション

テーマ「夢と希望を持ち、豊かな心を育む環境づくり」  
●コーディネーター  
山根基世（LLP ことばの杜代表、元NHK アナウンサー）  
●シンポジスト  
滝鼻卓雄（前 読売新聞東京本社会長）  
遠山敦子（パナソニック教育財団理事長）  
松崎秀樹（浦安市長）  
山折哲雄（国際日本文化研究センター 名誉教授）



### こころを育む総合フォーラム 2009 in 松江(島根県)

日時：12月14日  
会場：松江市総合文化ホール（プラバホール）

内容：山折座長による基調講演、「夢と希望と豊かなこころを育むまちづくり」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、約500人の参加者に豊かなこころを育むためのまちづくりを呼びかけました。子どもたちによるハンドベル演奏と「よさこいカンフー」披露では、真剣な議論から一転、会場は和やかな空気に包まれました。

#### 1. 基調講演

山折哲雄（国際日本文化研究センター名誉教授）  
テーマ「こころを育むとは～危機と不安のなかで生きる～」

#### 2. 園児たちによるハンドベル合同演奏

#### 3. パネルディスカッション

テーマ「夢と希望と豊かなこころを育むまちづくり～日本のふるさと松江からのメッセージ～」

- コーディネーター  
藤原秀晶（山陰中央新報社 論説委員）
- シンポジスト  
遠山敦子（パナソニック教育財団理事長）  
原田美穂子（松江市教育委員）  
山折 哲雄（国際日本文化研究センター 名誉教授）

#### 4. 市内保育所の子どもたちによる「よさこいカンフー」の披露



## 講演を一冊にまとめた『いま、こころを育むとは』発行

シンポジウムおよび全国キャラバンでの講演を一冊にまとめた『いま、こころを育むとは』（小学館新書）を09年12月に発行いたしました。「こころを育む」教育の大切さ、生きる力の育成に関する、具体的な提言です。

「いま、こころを育むとは～本当の豊かさを求めて～」  
著者：山折哲雄  
出版社：小学館  
サイズ：新書版  
ページ数：242ページ  
定価：756円（本体720円）  
発売日：2009年12月1日



## ■シンポジウム

2010年2月13日、九段会館 大ホールにて、「こころを育む総合フォーラム シンポジウム」を開催いたしました。

2回目となる今回は、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」09年度優秀事例の表彰式、受賞者と有識者によるパネルディスカッションなどを実施。全国からお集まりいただいた多くの方に、優れた活動を紹介すると共に、全国運動の呼びかけを行いました。



「こころを育む」活動を広く呼びかけるシンポジウム。全国から多くの方にお集まりいただきました



# 子どもたちの「こころを育む活動」 2009年度受賞事例

「こころを育む総合フォーラム」では、全国各地で実践されている、

子どもたちの「こころを育む」活動を募集し、

優れた事例を支援し紹介する全国運動を展開しています。

応募いただいた活動の審査・選考は、子どもたちの「こころを育む」活動であること、

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫のいずれかが認められることなどを基準に行われます。

2009年度は、個人の部からは奨励賞2名・個人賞1名、

団体の部からは奨励賞7団体・ブロック大賞5団体が選出され、

もっとも優れた活動として山形県立置賜農業高等学校 演劇部が第二回全国大賞に選ばれました。

未来を担う子どもたちの豊かな心を育む、多彩な活動をご紹介します。

### 「子どもたちの「こころを育む活動」 表彰式

09年度に募集した、子どもたちの「こころを育む活動」より選出された優秀事例の表彰を行いました。09年度は、個人の部から奨励賞2名・個人賞1名、団体の部から奨励賞7団体・ブロック大賞5団体が選出され、第二回全国大賞には山形県立置賜農業高等学校 演劇部が選ばれました。



全国各地からお集まりいただいた受賞団体・個人の方々に、表彰状や記念品が贈られました

### 実践事例発表 食育ミュージカル 「ごちそうさま！は秘密のタカラ」

全国大賞を受賞した山形県立置賜農業高等学校 演劇部による、食育ミュージカル「ごちそうさま！は秘密のタカラ」の発表が行われました。食の大切さを伝える楽しい舞台に、会場からは盛大な拍手が贈られました。



「家族で食事することの大切さ、食べ物には薬」をテーマに制作されたオリジナル作品です。

### パネルディスカッション 「進める、広げる、続ける」

「進める、広げる、続ける」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。受賞団体からパネリストを迎え、有識者メンバーと、活動における工夫や成功するポイントなどについて討論が行われました。



受賞者と有識者による討論の後、会場から質問をいただき、質疑応答が交わされました。

- ◎コーディネーター：市川伸一（東京大学大学院教授）
- ◎パネリスト：河原俊雄（山形県立置賜農業高等学校 教諭）、  
瀧田信之（湘南DVサポートセンター 理事長）、  
滝鼻卓雄（前 読売新聞東京本社会長）、  
遠山敦子（パナソニック教育財団 理事長）
- ◎コメンテーター：山折哲雄（国際日本文化研究センター 名誉教授）

### 08年度・09年度の受賞者を招いて 交流会を開催

08年度と09年度の受賞団体・個人の方々に招いて交流会を開催しました。実践者の皆さんと「こころを育む総合フォーラム」有識者メンバーが意見交換をしながら、交流を深める場となりました。



実践者同士、また有識者メンバーを交えて、活動について意見交換が行われていました。





食を見直すきっかけ作りを  
食育をテーマに、命をいただく  
ありがたさや食材につながる  
農業や自然について、わかり  
やすく伝えるオリジナルの  
ミュージカルを制作し、公演  
活動を行っています。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのところ 自分に 他者に 社会に

### 農業高校の視点から、食を伝える食育ミュージカル

## 食育ミュージカルによる 豊かなところを育む活動

#### 活動内容の紹介

#### 食育による豊かなところ作りを目指して

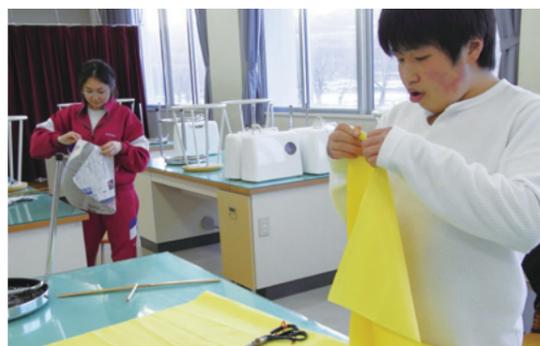
山形県立置賜農業高等学校の演劇部は、食育をテーマとしたミュージカルを制作し、小・中学校や児童館、公民館などへ出向いて公演活動を行っています。食べ物や命の大切さを学ぶ農業高校ならではの視点や言葉を活かしながら、命をいただくありがたさや食材の裏側にある農業や自然についてわかりやすく伝えることで、食生活の見直しや食によるところと体の健康を考え直すきっかけ作りを目指しています。さらに活動を通して、子どもと親、地域の人々や団体などと食育ネットワークを構築し、食育による豊かなところ作りを進めることを目指し、活動を続けています。



出張公演も  
地域の幼稚園や小・中  
学校をはじめ、さまざま  
な場所へ出向いて公演  
活動を行っています。



舞台装置は部員の手作り  
台本や歌詞は顧問の先生、振り付けは部員によるもの。舞台装置や衣装も、部員たちによる手作りです。



子どもの興味を引く衣装  
衣装を制作する部員たち。カラフルな衣装やかぶりものが、子どもたちの興味を引きつけます。

### 食育ミュージカル 「ごちそうさま! は秘密のタカラ」

食育ミュージカルは、演劇部顧問である河原俊雄先生が台本・歌詞を書き、部員が振り付けをしたオリジナル作品で、衣装や舞台装置などは部員が制作しています。毎年新たな作品の制作を続けており、1作目では「食への感謝と農業の大切さ」、2作目では「もったいないの心」、3作目となる「ごちそうさま! は秘密のタカラ」では「家族で食事することの大切さ、食べ物は薬」というテーマで、食とところのつながりを伝える公演を続けています。「ごちそうさま! は秘密のタカラ」は、偏食のせいで体の具合が悪い主人公が、旅を通して食べ物の本当のおいしさに目覚めるストーリーを、歌と笑いを交えながら語る約1時間の作品です。

#### あらすじ

むらさきタマネギのお姫様・バイオレット。  
このところ気分是最悪!  
頭痛、肩こり、食欲不振、微熱、高熱、下痢、便秘。  
なんとかしてよ!と、家来のキュウリ・キューカバンを  
引き連れて、やってきました地図の国。  
魔女たちの怪しい薬、カーボチャ様の奇妙な教え、  
どれもこれも効果なし!  
寂しげなリンゴ売りの姉妹に会い、たべものの本当の  
美味しさに目覚めます。  
大切なのは薬じゃない。  
たべものこそが健康のみなもと。  
家族みんなで仲良く食べて、  
ごちそうさま! で一日が始まるんだ。



偏食のお姫様が主人公  
偏食で体調不良のお姫様が、家来たちと  
旅に出るところから物語は始まります



食べ物のおいしさに気づいて  
子どもたちに嫌われることを恐れる  
ピーマンや、争いの絶えないス  
ナック菓子中毒者などに会いなが  
ら、食べ物のおいしさ、大切さに  
気づいていきます。



食べ物こそが、健康の源!  
食べ物が健康の源であること、家族で  
食事することの楽しさが歌でも伝えら  
れます。

伝えたい5つのメッセージ

- ①たべものは、げんきのくすり！  
(簡単にサプリメントに頼らないようにしましょう)
- ②おかしはほどほどに。(食べ過ぎはダメ！)
- ③すききらいをなくそう！  
(食べてみると意外に美味しいかも！)
- ④うんどうは、元気なからだをつくる！  
(お腹も空いて、ご飯がおいしくなるよ)
- ⑤かぞく・なかまといっしょにみんなで  
ごはんを食べよう！  
(お話ししながらゆっくり食べよう！)



笑いの中に、大切なメッセージを  
たくさん笑いながら子どもの関心を引きつけながら、  
食の大切さをわかりやすく伝えます。

参加した子どもたちの声

ミュージカルをみて、たべものはたべないとびょうきになったりするから、バランスをとりながらたべなくてはいいかなと思いました。

(小学生)

スプタとかをすききらいをしないでたべて、けんこうな体になりたいです。ミュージカルを見せてくれてありがとうございました。来年きたときはすききらいをしないでまっています。来年もきてください。

(小学校4年)

食育ミュージカル「ごちそうさま！は秘密のタカラ」をみて、食事の大切さが分かりました。私は朝ごはんは家族で食べないし、休日は朝ごはんを食べないので、食育ミュージカルを見てあらためて家族で食事をする楽しさがわかりました。

(小学校6年)

小学生からお礼の手紙  
公演後に届いたお礼の手紙などは部室に飾られ、部員たちの励みになっています。



田市立鶴川第二小学校



子どもたちの感想を反映  
公演後、感想を聞いたりアンケート調査などを行い、さらなる内容の向上を目指しています。



公演は、世代間交流の場にも  
別れを惜しむ部員と子どもたち。こうした交流により、部員たちは自信を育み成長しています。



学校の体育館などで公演  
学校の体育館を利用した公演。舞台から降り、子どもたちに呼びかけたり対話することで、会場は一体に。

活動の広がりが、高校生部員に  
自信と達成感を

食育ミュージカルは2007年より3年間続けられ、6,600人を超える観客を動員してきました。笑いや対話を効果的に取り入れた構成で、子どもたちは楽しいシーンでは笑い、悲しいシーンでは静かに見入るなどストーリーに引き込まれ、公演後は部員たちのもとへ集まり、衣装に触れたり一緒に写真を撮るなどして交流を深めています。観客は子どもと保護者だけでなく、食育関連団体などからの依頼もあり、公演先は広がっています。食育をテーマにした幼児向けの人形劇など、新たな活動も始まりました。一連の活動は、多くの観客に食育の場を提供すると共に、高校生部員たちに大きな自信と達成感を与えています。



地域に広がる活動の輪  
食育関連団体やPTAからの公演依頼も。大人にとっても、食を見直す機会になっています

3つの工夫

進める工夫

農業高校の特性を活かして

農業高校ならではの視点や言葉で、食についてわかりやすく伝えながら、食生活の見直しや、食によることと体の健康を考え直すきっかけ作りを目指しています。ミュージカル制作においては、笑いを交えた楽しいストーリー、かぶりものなどの衣装、小きざみ場面展開、観客への問いかけなど、子どもの興味を引きつけるための工夫をしています。公演後はアンケート調査などを行い、成果の確認を続けています。

広げる工夫

地域との連携で、6,600人動員

3年間の活動で、公演回数44回、観客動員数は6,600人を超えています。教育関係者や食育の専門家に公演を見てもらったことから認知が広がり、地元の新聞やテレビでも取り上げられるようになりました。地域の幼稚園や小・中学校のほか、給食米の提供を行っている東京の小学校への出張公演、食育関連団体やPTAからの依頼もあり、公演先が幅広く、貴重な異年齢交流の機会ともなっています。

続ける工夫

食育をテーマに、活動が発展

日々練習を重ね、部員の勧誘などにも力を入れることで、部の基盤作りを行っています。食育ミュージカルは、部員に合わせて台本を作成することで、部員全員が活躍する場を与えられ、また毎年違う作品が生まれています。食育ミュージカル以外にも、高齢者向けの公演や子ども向けのワークショップなどを行い、地域との連携を進めています。また「食育」をテーマに、人形劇など新たな活動も始まっており、「農業高校発信の食育活動」が発展しています。

参加した保護者たちの声

子どもには分かりやすく、大人でも楽しめて、最後まで見応えのある演劇でした。ところどころに笑いが入り、おもしろかったです。好き嫌いはいけないうこと、野菜は体にいいこと、子どもなりに理解したようです。

(保護者)



食べ物の大切さ、適度に体を動かすことの大切さ、家族と食卓を囲むことの大切さがわかりやすく、面白く表現されていて、子どもの心にも残ると思います。

(保護者)



みんな笑顔で元気良く、パワーをいっぱいもらいました。若い方々が食べ物に対してこんなに考えている事、これからが楽しみに思いました。

(保護者)

所在地：〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松3723  
TEL：0238-42-2101 / E-mail：skawaharat@pref-yamagata.ed.jp HP：http://www.okitama-ah.ed.jp/  
代表者：齋藤 聖 / 担当者：河原 俊雄



生徒主体の支え合いシステム  
「スクール・バディ・トレーニング」修了式を迎えた子どもたち。バディになった子どもたちは、自らいじめを防ぐための企画を考え、さまざまな活動を続けていきます。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのころろ 自分に 他者に 社会に

## 生徒同士の支え合いを支援し、いじめ防止へ

# いじめ防止プログラム 「スクール・バディ」活動

### 活動内容の紹介

#### いじめに対する傍観者をなくすプログラム

湘南DVサポートセンターでは、「他人も自分も大切にすること」「信頼できる人間関係や支え合いの大切さ」について子どもたちだけでなく教師・保護者に気づいてもらい、いじめに対する無関心な傍観者をなくすことを目的として、主に神奈川県と東京都の小・中学校へ出向き、プログラムを実施しています。「いじめ防止プログラム」で、講演会・ワークショップなどを実施後、有志を募り、子どもたち主体の支え合いシステム「スクール・



バディ活動」へと進めていきます。バディとなった子どもたちは、いじめを未然に防ぐために、校内放送や新聞、演劇などの企画を自分たちで考えながら、継続した活動を行っています。

#### 校内にバディ・ルームを設置

校内にはバディ・ルームが設けられ、バディはやってきた生徒の話を受けます。担当教師と湘南DVサポートセンターのスタッフがサポートします



8時間のバディ・トレーニング  
「いじめ防止プログラム」終了後に「スクール・バディ」を募集。活動を始める前に、8時間の「スクール・バディ・トレーニング」を行います。

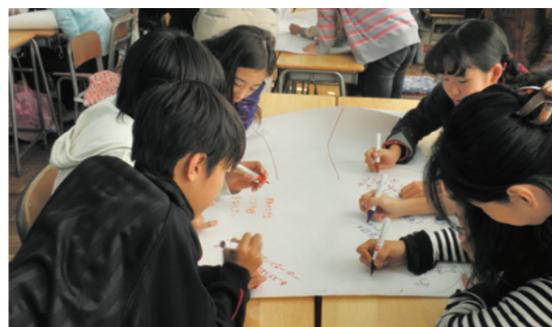


#### いじめ防止を訴えるビデオ制作

「スクール・バディ」は、ビデオ制作、演劇、校内放送、新聞やポスターなど、さまざまな表現方法を通して、校内外にいじめ防止を訴えていきます。

### いじめ防止の輪を広げるきっかけづくりを

2007年に「いじめ防止プログラム」を開始以来、小・中学校13校で、250回以上プログラムを実施しています。09年度からは、藤沢市が市内全中学校にプログラムを導入しました。バディ活動に関心を持った保護者が「ママさんバディ」を結成し、中学生をサポートし、地域と学校とのパイプ役になりながら、保護者としてできることを考えようと活動を始めています。プログラムは、子どもだけでなく教師・保護者が、いじめ問題を見つめなおし、防止への取り組みを広げるきっかけとなっています。



意見を出し合い、考えるワークショップ  
いじめの定義や加害者の背景、大切な自分の存在などについて考える、「いじめ防止プログラム」のワークショップ。



ワークショップ後の発表会  
「いじめ防止プログラム」のワークショップで学んだことを、文化祭などで発表します。

#### 参加した子どもの声

いじめられている人が、自分の気持ちを打ちあけられるようなスクール・バディになりたいと思いい活動に参加しました。バディ活動を始めて、仲間ができた感じがとても楽しいです。時間はかかるかもしれないけれど、心を打ちあけられ、笑えるような学校をつくっていきたく思います。僕たちがいなくなった後に、僕たちがやったことが無駄じゃないようになってくれればいいと思います。

所在地：〒251-0044 神奈川県藤沢市辻堂太平台2-2-3-102

TEL：090-4430-1836 / E-mail：tryton@kodomo-support.org

代表者：瀧田 信之 / 担当者：渡邊 千尋

### プログラムの構成

#### ■いじめ防止プログラム

暴力を使わずに対立を克服する方法や、自分も他人も大切に、自尊感情をもって生きることが暴力防止につながることを伝えるプログラムです。

◎目的：いじめに向き合う。傍観者にならず、行動を起こす！

◎対象：小学生・中学生

◎回数：5回（1回50分）初回全体講演含む

#### ①講演会

いじめについての共通認識をもつ。（生徒・先生・保護者）

#### ②ワークショップ

- 1回目 いじめは許されない  
(いじめの定義・被害者、加害者、傍観者の関係って?)
- 2回目 加害者の背景 (いじめの加害者って?)
- 3回目 大切な自分  
(自分と向き合う・自分ってすばらしい!・お互いを認め合う)
- 4回目 伝えよう、いじめ防止  
(人との境界線を身につける・アサーションというコミュニケーションスキル)

#### ③発表会

生徒が得た知識、スキルを文化祭などで発表する。

(※時間や内容は学校と相談)

#### ■スクール・バディ・トレーニング

「いじめ防止プログラム」終了後に「スクール・バディ」を募集し、8時間のトレーニングを行います。このトレーニングが学生たちの結束を強め、自主的な活動の基礎づくりになります。

◎目的：「スクール・バディ」になるためのトレーニング

◎対象：小学生・中学生  
(スクール・バディになりたいと思っている生徒)

◎回数：8回（1回50分）

### 3つの工夫

#### 進める工夫

暴力を使わずに対立を克服する方法や、自分も他人も大切に、自尊感情をもって生きることが暴力防止につながることを伝えることで、暴力防止の輪を広げ、安心できる学級・学校・地域づくりを目指して活動を行っています。そのため、子どもたちだけでなく、教師・保護者を対象に、プログラムを実施しています。

#### 広げる工夫

09年9月に、「スクール・バディ・サミット」を開催。「スクール・バディ」を取り入れた学校の生徒と教員が集まり、成果を宣言としてまとめ、地域へメッセージを発信しました。「スクール・バディ・サミット」には、文科省、神奈川県、藤沢市が参加し、以来多くの媒体の取材を受けるなど、活動の認知を広げています。

#### 続ける工夫

プログラム実施には、大学生などの青少年リーダーが参加しています。神奈川県が主催する「かながわコミュニティカレッジ」の「いじめ防止指導者養成講座」でファシリテーターを養成しています。また、教員対象の研修、保護者のバディを組織するなど、子どもたちのやる気を保ち続けるための働きかけを行っています。



自然体験交流会を開催  
「夏休み自然体験交流会」では、さまざまな自然体験プログラムを実施。悩みを抱える子どもたちが、アシスタントとして活躍しています。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つの心 自分に 他者に 社会に

## 自然体験と交流を通して、「思いやる心」を育む おたがいを知ろう… 自然体験を通じたふれあい交流

### 活動内容の紹介

#### 子どもたちの健全育成と自立更生を目指して

福寿草の郷では、「すべての人は必要とされ生まれ、愛し愛される貴重な存在で、みな幸せになる権利がある」という信念のもと、自然体験を通して子どもたちの健全育成を行うと共に、さまざまな障がいや悩みを抱える子どもたちが問題を乗り越え健やかに成長して行けるよう、自立更生支援を行っています。青少年の健全育成支援の一環として、山中の施設で行う自然体験講座では、さまざまな自然体験プログラムが実施され、子どもたちは「問題を解決する力」や「考える力」を育み、またお互いの違いを受け入れ認め合いながら、「伝える力」や「思いやる力」を深めています。



自分で作って遊ぶ、竹細工  
竹トンボや竹馬、竹箸などの竹細工作り。子どもたちは、考える力を育むと共に、工夫して遊ぶよさを学びます。



協力し合いながら苗木を植樹  
しっかりと大地に根をはり、個々の花を咲かせてほしいとの思いを込めて、桜の苗木植樹を行っています。

### 自然体験とコミュニケーションの不足を補って

子どもを取り巻く社会環境が大きく変化する現代、全身を使い五感をはたかせながら、仲間と共に自然に触れ合う講座は、自然体験の不足を補うと同時に人間関係の希薄化を補って、貴重な場となっています。参加した子どもたちは、自然の中での団体活動を通して、連帯意識を養い、自分が無数の存在に支えられている存在であることに気づきます。また自然体験講座では、アシスタントスタッフとして悩みを抱える子どもたちが活躍しており、そうした子どもたちが困難を乗り越え、積極性と社会性を養いながら成長する機会ともなっています。



山中の施設ならではのプログラム  
豊かな自然環境を活かした自然体験プログラム。炭焼き窯を制作するために、川で石集めを行いました。

### 参加した子どもの声

- そばやしを作って友達と交流できたので、たのしかったです。
- ここでやったいろいろな活動すべてが楽しく、いいおもいでになりました。
- 難しいものもあったけれど、いろいろ体験できて、またたくさんの友達ができてうれしい。
- すべての人は、他人が勝手にきめている殻を破って、一緒に協力し合って話し合い、考えを出し合い、一緒になって体験し合うと、お互いを尊敬しあえる親友になれると思いました。

### 自然体験講座の主なプログラム

自然体験講座では、生涯学習インストラクターの資格を持つスタッフが中心となり、さまざまな自然体験プログラムを実施しています。県内外から各種学校・グループの研修合宿なども受け入れ、子どもたちが自然とふれあう場を広く提供しています

- 蕎麦打ち
- 川遊び
- 草木染め
- 籠づくり
- 竹箆や竹トンボ、竹馬などの竹細工
- 昆虫採集
- キャンプ
- バーベキュー など



高齢者と異年齢交流の場にも  
グループに分かれてのそば打ち体験。高齢者を講師に招くことで、異年齢交流の場ともなっています。

### 3つの工夫

#### 進める工夫

自然体験講座などのプログラムでは、すべての子どもたちが責任を持って役割を果たし、かつ自発的に物事を考え対処しているようなカリキュラムづくりに努めています。また、連帯感や一体感を実感できるよう、協力しながら行なう自然体験を取り入れています。安全性に十分配慮しながら、挑戦する意志を尊重し、さまざまなことにチャレンジする機会を提供しています。

#### 広げる工夫

近隣各市の子ども会や里山楽遊会などと連携し、多くの子どもたちに自然体験の場を提供しています。また県内外の多数団体からの申し込みに対し、自然体験講座の受け入れだけでなく、希望に応じて連携団体との橋渡しをするなど、地域間交流の促進を考えています。中高校生・社会人・婦人会などを対象とした講義も行っています。

#### 続ける工夫

困難を抱える子どもたちをアシスタントとして採用し、活躍の場を与えることで、子どもたちが困難を乗り越え成長してもらおうために、高齢者を講師に迎えることに努め、異年齢交流を通して子どもたちに多様な価値観を実感する場づくりを進めています。

所在地：〒922-0100 石川県加賀市山中温泉西住町二25-1  
TEL：0761-76-1991 / E-mail：fj\_sato@bridge.ocn.ne.jp HP：http://www16.ocn.ne.jp/~fjs/  
代表者：高橋 竹夫 / 担当者：高橋 美子



ドラムを軸とした音楽活動  
ドラム演奏だけでなく、歌いたい人、踊りたい人にも呼びかけ、皆でステージに上がり音楽を楽しんでいます。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのこころ 自分に 他者に 社会に

### 支援学校と地域をつなぐ、音楽活動

## 歌って、踊って、 ドラムでハッピー!

#### 活動内容の紹介

#### 在校生と卒業生、 学校と地域がつながる場を

大阪府立豊中支援学校の在校生と卒業生、および彼らに関わる人々をクラブメンバーとして、ドラム演奏を軸とした音楽活動や公演を行っています。高等部でドラム演奏を取り入れた音楽活動が人気を集めており、在学中だけでなく、卒業しても仲間と一緒に音楽活動や公演を楽しめるように、また地域イベントなどへの出演を楽しむ中で達成感を感じ、自信をつけてほしいとクラブが結成されました。さらに、音楽活動を通して「在校生と卒業生/学校と地域」のつながりを育み、社会参加をすすめると同時に、障がい者への理解を広めたいとの思いから、さまざまな活動を続けています。



在校生と卒業生が共に音楽を楽しむ場  
クラブの活動により、在校生と卒業生と一緒に地域イベントなどに出演できるようになり、大きな自信や達成感を得ています。



校外のレッスンに通う生徒も  
活動を通してドラムの楽しさを知ったことがきっかけで、学校外の音楽教室に通い、ドラムの個人レッスンを続ける在校生・卒業生もいます。

#### 技術の習得をサポートし、発表の場を提供

プロドラマーやダンサーを招いてワークショップを行ったり、オリジナルDVD教材を開発するなどして、ドラム演奏やダンスの上達をサポートしています。発表の場は学校内だけではなく、表現活動を通して障がいのある人の自立支援を進めることを目的に開催されている「素のままフェスタ」など、地域で催されるイベントにも積極的に出演しています。出演の様子はDVDにして出演者に配布し、ステージでの達成感を振り返り、自信を育むために活用しています。

#### 障がいを持つ青少年が輝く姿を 社会にアピール

以前は、在校生と卒業生と一緒にステージ出演を楽しめるような機会はありませんでしたが、クラブ発足によりその場ができ、それが地域に広く受け入れられるようになりました。活動でドラムの楽しさを知ったことがきっかけで、学校外の音楽教室に通いドラムの個人レッスンを受けるなど、大きな自信とやりがいを見つけた在校生・卒業生も多くいます。活動は、知的障がいのある彼らが音楽活動を楽しみ、拍手を浴びて自信や達成感を得る貴重な機会となっており、彼らと地域の人々とのこころのつながりを育てています。

#### 参加した子どもの声

■ドラムが叩けるようになって、みんなから「すごい!」と言われるようになって自信がついた。もっともっと練習してうまくなって、多くの人に自分のドラムを聴いてもらいたい。

(在校生)

●■在学中はダンスが大好きで毎日踊っていたが、卒業して5年間、家では一度も踊ったことがなかった。でも、今日は久しぶりに大勢の友達と会うことができ、まるで大きな同窓会のように喜んでる。満面の笑顔で生き生きとステージで踊っている姿を見て、ダンスはひとりでは踊れないのだなあと感じた。これからも、ぜひこのような機会を増やしてほしい。

(イベント会場にて、卒業生の母)



学校で上達をサポート  
学校にプロドラマーを招いたり、オリジナル教材を開発するなどして、上達をサポートしています。



地域のイベントにも参加  
障がいのある人の自立支援を進めることを目的に開催される「素のままフェスタ」など、地域のイベントにも参加しています。

#### 3つの工夫

##### 進める工夫

生徒たちが大好きなドラム演奏や歌、ダンスの音楽活動を、在学中だけでなく卒業してからも楽しめるようにとクラブを結成し、学校の枠を超えて地域と協働でさまざまな活動を行っています。ワークショップなどで意欲を高め、オリジナルDVD教材の普及によりスキル習得をサポートし、達成感や自信を育てています。

##### 広げる工夫

近隣市での音楽イベント出演については毎回大きな反響を呼び、活動の認知が広がりつつあります。ステージ発表を通して、障がいがある人たちのいきいきとした姿を社会にアピールするために、積極的に活動の場を広げています。また、イベント出演のお知らせや活動状況を、ウェブ上の「D.D.D.クラブのブログ」から広く発信しています。

##### 続ける工夫

在校生・卒業生と共に教員もドラムレッスンを受講し、指導技術の向上を図るとともに、有料レッスンに通えない人のための練習場づくりを目指しています。また、卒業した生徒が継続してステージ発表に参加できるように、卒業生が通う福祉施設にも練習用CDやDVDを配布しています。

所在地：〒560-0001 大阪府豊中市北緑丘2-7-1 大阪府立豊中支援学校内  
TEL：06-6840-1801~2 / 学校 E-mail：Toyonaka-y@sbox.osaka-c.ed.jp 学校HP：http://www.osaka-c.ed.jp/toyonaka-y/  
D.D.D.クラブHP：http://web.me.com/masaso/ddclub/ 代表者(担当者)：園田 葉子



高齢者と小学生と一緒に  
野菜栽培を  
プランターへじゃがいもの植  
え付け。じゃがいも名人(地  
域の高齢者)と小学生がチ  
ームを組んで、じゃがいもを育  
てます。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのところ 自分に 他者に 社会に

## 野菜栽培体験と、世代間交流の融合 じゃがいも大作戦

### 活動内容の紹介

#### 野菜栽培を媒体に、異世代の共学・協働を

「じゃがいも大作戦」は、地域住民と小学生を対象に、プランターでじゃがいもを育てる活動を通して、両者の共学、協働、ふれあいを図る取り組みです。子どもたちは、地域の高齢者と交流を深めながら、じゃがいもの栽培を体験します。一連の活動は、城北公民館をはじめとする地域団体と、小学校の連携により進められています。地域の人々と共に野菜の栽培や収穫の喜びを体験することで、子どもたちは物事をやり遂げる達成感を感、感謝の心を育てています。

#### 参加者が交流を深められるプログラム構成

小学生と地域の高齢者がチームとなり、地域の高齢者(じゃがいも名人)による指導のもとで、プランターにじゃがいもの植え付けを行います。プランターは高齢者宅に置かれ、子どもたちは下校時などに訪問し、高齢者と協力しながらじゃがいもの栽培を続けていきます。収穫時には「収穫祭」としてお世話になった高齢者を招き、採れたじゃがいもを調理して食事会をし、学習発表を行います。



高齢者宅で栽培体験と交流  
じゃがいもの生長日記を読む子どもたち。学校からの帰り道に高齢者宅を訪問し、じゃがいもの世話をしながら、交流を深めます。



高齢者が参加しやすい工夫も  
プランターを使用することで、家での野菜栽培が可能に。地域の高齢者が、自宅にいながら活動に参加することができます。

### 充実感・達成感を高めるさまざまな工夫

じゃがいも栽培に畑や花壇ではなくプランターを使用することで、多くの高齢者が協力しやすくなり、子どもたちと自宅でふれあいを持つことが可能になりました。長期的な交流を通して、子どもたちはお世話になっている高齢者に対して尊敬や感謝の心を持ちます。また活動には、学校との連携により対象学年が全員参加するため、参加者の広がりや活動の継続性を生んでいます。参加した高齢者と子どもたち両者から、充実感と達成感が伺える取り組みで、近隣公民館にも類似事業が広がっています。



地域の人々を招いて収穫祭を開催  
お世話になった人と収穫祭を祝います。長期的な交流により、地域の人への尊敬や感謝の心が育まれています。

### 参加した子どもと高齢者の声

きょう、じゃがいも大きくせんのなかよし会があったよ。一番楽しかったのは、名人さんともっともとなかよくなれたところだよ。名人さんがきてくださってうれしかったよ。じゃがいもが大きくなって、いっぱいできて、おいしくおろりょうりして食べたいなあとと思っています。  
(交流会にて、小学2年生)



子どもたちの親しみのある元気な声での挨拶に迎えられ、次いで歌、作文発表、クイズ、ゲームと、子どもたちがその役割を二年生らしく精一杯に果たしていたのが印象的でした。子どもたち、保護者の方、じゃがいも名人のおじいちゃんおばあちゃんでのゲームでは、三世代が一緒になって遊び、楽しい時間を過ごしました。このような学校や地域の各世代の人々に関わる行事をさらに取り入れてもらいたと思います。  
(交流会にて、じゃがいも名人として協力する高齢者)

所在地：〒690-0888 島根県松江市北堀町43  
TEL :0852-26-4437 / E-mail :jyohokuk@mable.ne.jp  
代表者(担当者): 寺津 千賀

### 2008年度の活動内容

|            |                                       |
|------------|---------------------------------------|
| 5月         | 地域と学校による打ち合わせなど                       |
| 7～8月       | 高齢者と小学生の顔合わせ                          |
| 9月         | じゃがいもの植え付けその後収穫まで、定期的なじゃがいもの世話、交流会など。 |
| 11月<br>12月 | 高齢者を招いての学習発表会<br>じゃがいもの収穫             |
| 1月         | 収穫祭                                   |



自分で育てた野菜を調理し食べる体験  
じゃがいもの収穫。地域の人々との収穫祭で、じゃがいもを入れたカレーを作り、皆で食べます。

### 3つの工夫

#### 進める工夫

地域住民と小学生と一緒に協力しながら野菜栽培を体験することで、充実感や達成感を共感すること、またその世代間交流を地域力の醸成に繋げることを目的に、地域と学校が連携して活動を行っています。今までの成果を活かしながら、さらに畑での栽培や、地球環境を考えるプログラムの導入など、活動の展開と発展を目指しています。

#### 広げる工夫

中心市街地であるため農地の利用が困難だったこと、また子どもたちと地域を結びつける方法を考え、プランターを採用しました。プランターを地域住民宅に置くことで、子どもたちが家庭を訪問し、長期的なふれあいを持てるようになりました。教育関連機関や近隣市からの視察や問い合わせも多く、近隣公民館で類似事業が始まっています。

#### 続ける工夫

学校との連携により、対象学年全員が参加することになり、多くの子どもたちを対象に活動が継続しています。活動終了後も、子どもたちが地域活動に参加したり、高齢者との交流が継続することを目指して指導しています。子どもたちの手記をまとめた冊子作りなど、活動を未来に伝える取り組みも視野に入れています。



社会問題などがテーマ  
平和・環境・社会問題を  
テーマにしたミュージカル  
公演などを通して、自然  
や郷土を愛する心を育む  
活動です。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのころろ 自分に 他者に 社会に

### 郷土愛を育む、ミュージカル創作

## 平和・環境・社会問題をテーマとする 地域活動とミュージカルの公演

#### 活動内容の紹介

#### 人の心や自然、郷土を愛する心を育む

児童劇団つばさは、子どもたちがお互いを思いやり、認め合い、努力しながら、健全な心身と、郷土や自然への愛や誇りを育むことを目的として、小学生を対象に1988年に結成されました。活動内容は、地域公民館での週2回の練習やミュージカルの定期公演のほか、地域の清掃活動など幅広く、劇団が社会教育向上の場となることを目指し、活動を続けています。公演は、年1回の定期公演以外にも、地元団体などの依頼を受け特別公演や慰問活動を行い、地域との交流を深めています。



集団の中で、思いやりの心を育む  
地域の公民館を利用して、週2回練習が行われて  
います。子どもたちは集団で活動する中で、思  
いやりの心や努力することを学んでいます。

#### 地域の歴史や文化を伝える創作ミュージカル

地元である小郡市の風土や歴史、人物などを題材に創作したミュージカル公演を行っています。1988年の創立以来、年に一度の定期公演を無料で23回続けてきました。定期公演は、小郡市文化会館の650席を満席にするなど、地域の人々に広く認知されています。こうした公演を通して、団員の子もたちと観客である地域の人々に、人の心や自然の大切さ、郷土を愛する心を与えています。

#### 児童劇団つばさのローガン

1. あいさつをしよう！
2. けじめをつけよう！
3. きまりをまもろう！
4. 考えよう 想像しよう 表現しよう

#### 地元に着した活動で、 地域の理解と協力を

劇団活動により、子どもたちは協力しながら思いやりや向上心を選び、また地域を題材にすることで郷土愛を育てています。入場無料の公演を続けることや、地域活動への積極的な参加により、地域の理解、協力を得て活動が継続しています。環境保全活動をテーマにした演劇活動や、老人福祉施設等の慰問活動、地域の清掃活動などが認められ、福岡県より「第6回 青少年アンビシャス運動表彰団体」を受賞しました。



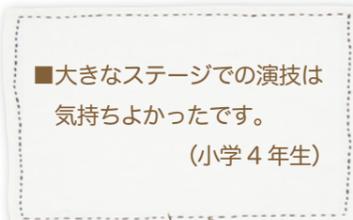
地域の清掃活動に参加  
地域の清掃や、地元小学生と一緒に地域活動に参加するなど、  
公演以外にもさまざまな活動を展開しています。

#### 参加した子どもと高齢者の声

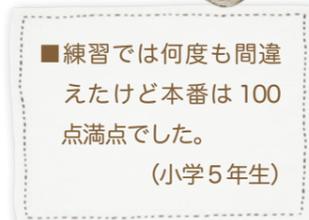
■大きなステージで、緊張しながらの本公演が終わってから、客席から大きな拍手をもらった時は感動と「やっと終わった」と思う気持ちで涙が止まりませんでした。  
(小学6年生)



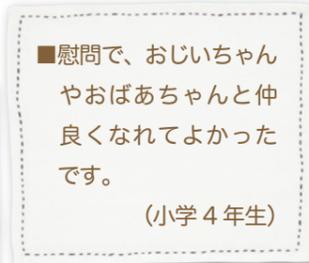
■大きなステージでの演技は気持ちよかったです。  
(小学4年生)



■練習では何度も間違えたけど本番は100点満点でした。  
(小学5年生)



■慰問で、おじいちゃんやおばあちゃんと仲良くなれてよかったです。  
(小学4年生)



地域の高齢者と交流も  
老人福祉施設などの依頼を受け慰問活動を実施。高齢者を元気づけ、交流を深める活動を行っています。



入場無料の定期公演を継続  
1988年の劇団創立以来、入場無料の定期公演を続けています。また、  
さまざまな場所で特別公演を行い、地域での活動を広げています。

#### 3つの工夫

**進める工夫**  
地域の風土や歴史を題材にした劇団活動を通して、団員の子もたちだけでなく地域の人々に、人の心や自然の大切さ、郷土を愛する心を伝えています。社会教育向上の場づくりを目指し、規律を設け子どもたちを指導しています。創作ミュージカルに際しては、外部指導者を招くなどして、質の向上に努めています。

**広げる工夫**  
劇団として福祉施設への慰問や川の清掃活動を行うほか、地元小学生と一緒に地域活動に積極的に参加するなど、活動の幅を広げ、地域と交流を深めています。入場無料の定期公演や、さまざまな場所での特別公演を通して、地域を中心に多くの人々に認知を広げています。

**続ける工夫**  
創立以来、年に一度の定期公演を無料で23回続けてきました。地域の文化や歴史のほか、環境保全などを題材に、毎年新たなミュージカルの創作に取り組んでいます。ホームページを活用して、活動報告や公演告知、団員の募集を行っています。

所在地：〒838-0112 福岡県小郡市干潟2324-4-2  
TEL：0942-72-5077 / E-mail: oth.hisashi.0321@ezweb.ne.jp / HP: http://www.kurotuti.net  
代表者(担当者): 廣瀬 久士



多彩な表現活動を体験  
絵を描いたり、ものを作ったりといった表現活動を通して、こころを育むワークショップを実施しています。グループでの意見交換や、保護者を交えたパーティ、包丁磨ぎ体験など、多彩なプログラムを展開しています。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのこころ 自分に 他者に 社会に

## 表現活動を通して、自己肯定感を育む 目指せ!心キンニクマン!! 心を育む継続的ワークショップ

### 活動内容の紹介

#### 楽しみながら自分を発見する、創造表現空間

ハート&アート空間「BE I」(ピーアイ)では、主に子どもを対象とした独自のワークショップを毎日継続して展開しています。「ピーアイ」とは「自分であれ」という意味。自分として生きることを「うれしい」「楽しい」と実感できる空間を目指し、ワークショップを構成しています。子どもたちは、仲間と一緒に絵を描いたり、ものをつくったり、料理をして食べたりといった表現活動を通して「自分は何が好きなのか」「何をしていると楽しいのか」体と心を動かしながら自分にチャレンジし、豊かな心と生きる力を育てています。

#### 未来へつながる、子育て・大人育ちの実践

22年間にわたる活動により、歴代会員は1,800人以上となり、親子2代にわたる参加者も増えています。卒業しても気軽に立ち寄ることができる雰囲気づくりや、卒業生を迎えての合同企画など、歴代会員・現会員・保護者が長期にわたって関わりあえるネットワークを形成しています。さらに、学校や美術館など地域の施設・団体、包丁磨ぎや海苔作りの専門家など地域の人々とも広く連携しながらワークショップを行い、地域に根づいた、子どもと大人が育ち合える環境づくりを進めています。

### 参加した子どもの声

- (包丁磨ぎをして) もっともっと包丁磨ぎたかった!一日中やっても磨ぎ足りないよ!
- (ピーアイってどんなところ?) 先生との距離が近くて、いつでも「自分」を受け入れてくれるところ。自由になれるところ。思いっきり楽しい。
- (ピーアイってどんなところ?) いつ行っても変わらない、「あったかい」空気を持っているところ。

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

「自分らしく生きる」ことの楽しさ、うれしさを実感できるよう、子どもたち一人ひとりに応じたカリキュラムの展開を行っています。ワークショップの前後に子どもたちの様子を確認、スタッフで情報を共有し、一貫した対応を心がけています。学校やその他の施設で出張ワークショップを行ったり、指導者向けの研修を実施するなど豊かな場、関係づくりを行い、活動の輪を広げています。「街の名人・達人」、地域の施設・団体と連携しながら、子どもたちが豊かになる経験の場を創造し続けています。

所在地:〒980-0922 宮城県仙台市青葉区立町20-11 ミカミハウス2F  
TEL:022-262-2969 / E-mail:zoukabako@gold.ocn.ne.jp / HP:http://www.12.ocn.ne.jp/~bei/  
代表者:関口 怜子 / 担当者:清水 千佳



平和の小包を送る活動  
ピースバックプロジェクトは、難民の子どもたちに教育の機会を提供するために、文具などを入れた平和の小包「ピースバック」を作り、送る活動です。子どもたちは活動を通して、世界の平和や難民の現状について学んでいます。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのこころ 自分に 他者に 社会に

## 国際協力へ参加しながら、平和の尊さを学ぶ ピースバックプロジェクト

### 活動内容の紹介

#### 難民と日本の子ども双方に教育を

ガールスカウト日本連盟では、「世界の平和を望む心を育てること」を目的のひとつとし、地域において女性による少女のための活動を行ってきました。この目的を具体的活動としたピースバックプロジェクトは、難民の子どもたちへ平和の小包「ピースバック」を送る活動で、難民の子どもたちが「教育」の機会を得られるように文具などを入れたプレゼントを作成しながら、子どもたちは「難民」「平和」について学んでいます。難民と日本の子ども双方に教育の機会を提供することにより、世界平和へとつなげる取り組みです。

#### 世界平和のメッセージを地域に発信

1994年～2008年の15年間にわたる活動で、パキスタンのアフガン難民キャンプへ約16万個、タイのミャンマー難民キャンプへ約9万個のピースバックを送りました。配布と視察のために20代の会員が現地へ出向き、後日現地の様子を報告することで、プロジェクト参加者が成果や情報を共有しています。ピースバックを作成する際に、学校や地域に呼びかけ、協力者を募ることで、多くの人々に難民について考える機会を提供し、地域社会に世界平和のメッセージを発信しました。

### 参加した子どもの声

- 今までは、世界平和について、自分の中で“思う”“考える”だけで、行動するというのを自主的に行わなかったと思うので、これからは“何ができるか”を考慮しつつ、行動に移していければよいという、具体的な目標を持つことができました。
- 平和という言葉が大きく捉えるのではなく、小さな平和を目指したいと思います。関心を持ったことに関しては継続性を持って行動していきたいです。

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

多くの国際的な団体との連携が、世界へつながる活動を可能にしています。実際に手を動かしてピースバックを作成することで、難民キャンプの子どもたちの状況を伝えることで、子どもたちが難民や平和について興味を持ち、考えることができるようになりました。15年間の継続した活動が、子どもたちに自信を与え、学校や地域に活動の輪を広げています。ピースバックプロジェクトは08年に終了しましたが、難民キャンプの支援を考えた新しいプロジェクトが新たに始まります。

所在地:〒151-0066 東京都渋谷区西原1-40-3  
TEL:03-3460-0701 / E-mail:gsl@girlscout.or.jp / HP:http://www.girlscout.or.jp  
代表者:和田 照子 / 担当者:片岡 麻里



企業が協力し、多彩なプログラムを展開  
農家の方からお米が出来るまでを学びながら、おむすび作りを体験する「親子de正しいおむすび教室」や、省エネやリサイクルなどの最先端施設や取り組みを見学する「まちづくりで環境を学ぼう」など、大丸有エリアの企業が協力し、さまざまなプログラムを実施しています。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのところ 自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

## 企業が取り組む、環境を学ぶ体験プログラム エコキッズ探検隊2009

### 活動内容の紹介

#### 都市在住の子どもたちに環境問題を伝える

「エコキッズ探検隊」は、子どもたちがさまざまな楽しい体験を通して、ヒートアイランド現象やCO2排出など、都市特有の環境・エネルギー問題への理解を深めることを目的としたプログラムです。東京の大手町・丸の内・有楽町(=大丸有地区)を中心に、多くの企業が協力し、環境ワークショップや環境最先端企業への訪問などを実施しています。次世代を担う、環境リーダーの育成を進めると共に、参加した子どもたちがプログラムで得た情報を持ち帰ることによる、家庭内での環境に対する意識拡大を目指しています。

#### 企業の協力による多彩なプログラム

4年目となる2009年度は、7～8月の計18日間で17プログラムを実施し、941人の子どもが参加しました。大丸有地区の26の企業や団体が参加し、エリアを巻き込んだ活動に発展しています。さまざまな企業や団体がプログラムを開催することで、内容が食育・工作・技術見学・音楽など多岐にわたり、参加者に広がり生まれ、また複数のプログラムに参加する子どももいます。見学、実践、体験型のプログラム構成は子どもたちに新鮮な感動を与え、家庭内のコミュニケーションを活発にし、また将来への夢を育てています。

### 参加した子どもの声

- 連日、違った角度から環境について学べるところが楽しい
- 学校と違う友達ができる
- パパとママに見せてあげる(最新施設の写真を撮りながら)

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

各プログラムに取り組む前に、まず環境問題を理解してもらうため、温暖化や都市の気象の特徴などを写真やクイズ形式でわかりやすく伝えています。身近にあるもので実践できるプログラムを設けています。プログラム終了後も追跡調査を行い、どのようなプログラムが効果的で継続的な活動につながるのか検証することにより、より効果があり楽しんでもらえるプログラムづくりに努めています。新規企業への参加提案を積極的に行い、内容の充実を図っています。

所在地：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階  
TEL：03-6266-9400 / HP：http://ecozzeria.jp  
代表者：井上 成 / 担当者：篠崎 隆一



仲間と共に感動を体験  
伊那市教育委員会を中心に、学校や地域が連携して、集団での体験活動を実施しています。地域と自然を守るためのゴミ拾い、山林の観察、野菜や果物の栽培体験など、頭・体・心でさまざまなことを学べる取り組みです。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのところ 自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

## 年齢・学校の枠を超え、頭・体・心で学ぶ どの子どもも育つ 「頭で学ぶ・体で学ぶ・ところで学ぶ」

### 活動内容の紹介

#### 「ところを育む」「どの子どもも育つ」 集団での体験活動

「はなまる地域探検隊」は、伊那市教育委員会が中心となり、学校や地域と連携しながら、子どもたちにさまざまな経験のできる場を提供するプログラムです。集団対応力など対人関係の力をつけること、体験を通してものごとの本質をつかむこと、体感・感動を通してところの働きを養うことを目的として実施しています。地域の自然を利用した動植物観察、ものづくり体験・奉仕活動などが行われ、子どもたちは年齢や学校の枠を超えて仲間をつくり、頭・体・心で多くのことを学んでいます。

#### 継続性・発展性のある独自のプログラム構成

「健康ウォークとゴミ拾い」「野菜栽培と地域の人々とのふれあい」「自然観察と絵手紙づくり」などの複合的なプログラム構成で、各活動が継続・発展しています。こうした継続的活動により、子どもたちの間に創意工夫する意欲が生まれ、お互いに協力し、学び合う協同の力が育まれています。野菜栽培に地域の専門家を招いたり、収穫できた作物を贈ろうと施設へ向いて交流活動を行うなど、地域に密着した活動により、協力の輪が広がりました。子どもたちが感動を持ち帰ることにより、家庭でも地域の自然や文化、産業、また食育などへの関心が高まっています。

所在地：〒396-8617 長野県伊那市伊那部3050  
TEL：0265-78-4111 (内線2726)  
代表者：北原 秀樹 / 担当者：伊藤 元郎

### 参加した子どもの声

- さつまいもほりはとても大変だったけど、とても沢山とれたのでうれしかった。働いた後のご飯やさつまいも汁などはとても美味しかったので、2～3杯も食べてしまいました。なかなか体験できないことが今日はできて、とてもうれしかったし、とても良い体験になりました。
- 家では新聞をとっていないので、新聞社へ行って歴史やできあがるまでを見学すると新聞を読みたくまりました。前とっていた時はテレビの欄しか見ていませんでした。今日たくさん説明を聞いたので、今度は他のページも楽しく読めそうです。

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

継続性・発展性のあるプログラム構成により、参加した子どもたちが次回に友達を呼ぶなどし、隊員は増加しています。学校、青年会議所、ボーイスカウト、ガールスカウトなどさまざまな団体との連携により、参加者の拡大やプログラム内容の充実を図っています。6年間の活動の継続により、経験を積みリーダーとして活躍する子どもたちも増えてきました。活動を経験した子どもたちが、学校や地域でよりよい活動を進める力となれるよう、事業を進めています。



世界を視野に行動を  
世界で起きている問題について学びながら、文房具を回収して現地へ送る活動や、チャリティ商品の製作・販売、街頭での募金活動などを行うことで、問題に立ち向かうアクションを起こすという経験を積んでいます。

●活動領域 ④ 家庭 ④ 学校 ④ 地域 ④ 企業 ●3つのところ 自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

## 世界を学び心を養う、社会貢献活動の実践 サスティナブル社会の実現をめざすための シチズンシップや行動力を養うための学習

### 活動内容の紹介

#### 世界の問題を知り、「できること」をやる

伊勢市立五十鈴中学校では、授業の一環として、持続可能な社会のために、解決しなければならない人権問題や環境問題について学び、自分の状況に感謝すると共に、問題解決のために何ができるのかを考える心を養うことを目的として、体験学習を実施しています。また「できること」を実践することで、行動に必要なスキルを習得し、問題に立ち向かう心の育成を目指しています。地域や企業と連携し、地場産業である「松阪もめん」を材料としたチャリティ商品の製作・販売や、街頭での募金活動などを続けています。

#### 持続可能社会のための意識と行動力を育成

子どもたちは、世界に困窮した生活を強いられている人々がたくさんいるという事実を知ること、親や身の周りの人々・環境に感謝する気持ちを育てています。また、問題に立ち向かうアクションを起こす経験は、世界の問題を自分のこととしてとらえ、「自分にできること」を問いつける姿勢も育てています。4年間の募金額は100万円を超え、文房具送付活動も3年間継続しています。活動は、モノやお金を大切にすること、他者と喜びや幸せを共有する心を養う機会にもなっています。

### 参加した子どもの声

- こんなに力がいった授業は初めてでした。ぜひ、後輩にも体験させてください。
- レジの横にある募金箱にお金を入れる自分になりました。

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

「自分にできること」を考えさせ、それを行動につなぐことで、子どもたちの意思が反映されるよう配慮しています。「松阪もめん」を扱う地元店舗や、カンボジアの地雷除去に尽力するNGOなど、地域や団体、企業と連携することで、学校だけでは行えない活動を実現しています。さらにこうした外部からの働きかけや評価は、子どもたちの活動へのモチベーションを維持し、学びを拡張させるよい刺激となっています。これまで主に取上げてきたカンボジア以外にも、世界の問題へ広く目を向けるよう指導を進めています。

所在地：〒516-0028 三重県伊勢市中村町458  
TEL：0596-24-4888 / E-mail:iisuzu@jr.ise-mie.ed.jp  
代表者：島原 弥生 / 担当者：西村 朱美



自由に集い遊べる場  
森の遊び場を整備する段階からさまざまなプロジェクトの企画まで、地域の人々ができることを持ち寄り、協力しながら取り組んでいます。子どもたちは、自由な遊び体験や異年齢交流を通して、多くを学んでいます。

●活動領域 ④ 家庭 ④ 学校 ④ 地域 ④ 企業 ●3つのところ 自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

## 地域ですすめる、自由に育つ環境づくり 自然環境を最大限に生かした冒険遊び場づくりへの挑戦 ～人と人がつながり育ち合う 森の冒険ひみつ基地～

### 活動内容の紹介

#### 自然や人との関わりの中で、自由に遊べる場所を

子どもたちを取り巻く環境の変化、自由な遊び場の不足などに疑問を抱いた母親たちが中心となり、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、冒険遊び場(プレーパーク)活動に取り組んでいます。地域の協力者から里山の提供を受け、野外活動指導者を招いて、森の遊び場整備を行いました。活動を通して、子どもたちの自己肯定感を高め、生きる力や社会性を育むことを目的に、さまざまなプロジェクトを進めています。また、いじめなど青少年問題の予防、地域で自由に育つ環境づくりなどを目指し、地域ぐるみで活動を続けています。

#### さまざまな人が関わることで、広がる可能性

野外で遊ぶ子どもが少なく寂しい遊び環境だった地域が、プレーパーク作りにより活性化しています。整備の際には、子どもから高齢者まで地域の人々ができることを持ち寄り取り組みました。そのプロセスからつながりが生まれ、プレーパークは家庭や学校を越えて交流し合える場となり、地域活動の活発化や人材育成が進んでいます。2005年からの活動により、2,000人以上が活動を体験しました。活動の主要テーマを「子ども・自然・環境・福祉・地域コミュニティ」とし、新たな取り組みへ可能性を広げています。

### 参加した子どもの声

- 一人だったらつまらなかったかもしれないけど、すぐ知らない人とでも友達になれるところがいい。
- いろんなところのプレーパークに参加したけれど、里山を生かしたプレーパークが一番面白い。友達と一緒に思い切り遊び、楽しみたい。
- ここは、おもちゃもゲームもいらん。1日おってもあざん。

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

乳幼児から高齢者まで、幅広い世代が自由に集うことができ、世代間交流を通して育ち合うことができる場を目指して、森の遊び場整備やプロジェクト企画を行っています。NPO団体なども連携し、講演会を実施して「地域で自由に遊ぶ育つ環境の重要性」を地域社会に発信しています。活動内容をブログで活動を紹介することで、地域の理解者・応援者が増え、ボランティアの輪が広がっています。子どもたちの父親が育児参加できる貴重な場ともなっており、父親のより積極的な参加を促すプロジェクトなども企画しています。

所在地：〒705-0024 岡山県備前市久々井1431-1  
TEL：0869-64-4178 / E-mail:bizen\_playpark@yahoo.co.jp / HP：http://bizenplaypark.blog66.fc2.com/  
代表者(担当者)：北口 ひろみ



食を育む環境への理解を  
おにぎりやだご汁など、日本  
食の基礎や伝統食を作る料  
理教室に環境セミナーを組  
み合わせ、食と環境につい  
て学ぶ機会を提供しています。  
子どもたちは、料理する体験  
を通して、自然や人への感謝  
の心を育んでいます。

●活動領域 ④ 家庭 ④ 学校 ④ 地域 ④ 企業 ●3つのこころ 自分に 他者に 社会に  
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

## 命をつなぐ「食と環境」を学ぶ料理教室 子どもといっしょにエコプロジェクト (ごきげんごはんを作ろう)

### 活動内容の紹介

#### 食と環境をむすびつけて考える場を提供

食と環境を連携させ、考える場・行動する場・継続する力を培う場として、また子どもたちに命の大切さを伝えることを目的として、料理教室や環境セミナーを実施しています。料理教室では、ご飯や味噌汁といった日本食の基礎や、味噌や納豆などの伝統食を作る体験を通して、自分で食べ物を選び、作ることができる力を育んでいます。あわせて、命ある食べ物が育つ土・水・空気を汚さない生活を考え、行動できる力を育てるための環境セミナーを行い、命をつなぐ「食と環境」の大切さを伝えています。

#### 料理体験を通して育まれる、 自然や人への感謝の心

命をつなぐ食を作る体験は、子どもたちが楽しさ・おいしさ・うれしさを実感し、食材が育つ土・水・空気などの自然に感謝すると共に、その大切さを考える機会となっています。火や包丁を使う体験は自信と達成感与え、また家族のために料理を作る喜びや、いつも作ってくれる人への感謝の気持ちを育んでいます。継続した活動により、参加者の広がりや、学校の環境授業や活動目標とのつながりが生まれています。子育て中の大人や親子を対象とした講座開催も視野に入れ、食について考え、広げる環境づくりを目指しています。

所在地：〒810-0022 福岡県福岡市中央区薬院1-16-5 松井ビル1002  
TEL：092-711-2022 / E-mail：mi2355ku@zc4.so-net.ne.jp  
代表者：松井 久美子 / 担当者：篠原 貴美恵

### 参加した子どもの声

- いろいろなムダとか食べ残しとか、やっぱりよくないと思った (中学1年女子)
- 環境を整えてこそおいしい食材・料理だと思った (中学3年男子)
- 空気などを汚して困るのは自分たちなんだなあと思った (小学5年女子)
- おいしかったので家で作ってみたい。これからは食べ物を大切に小さなことから環境に気をつけていきたい。マイバッグやマイ箸を常におきたい (小学6年女子)

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

教室外でも料理を継続して実践できるよう、料理の基礎を掲載したノートを配布したり、連続した教室の場合は、家庭で料理した体験を発表してもらう機会などを設けています。学校など開催場所へは、事前に活動プランを提示して活動の狙いと内容の理解を促し、また事後は報告書を提出するなどして、継続して講座開催できるよう努めています。教室開催時には、地域にアシスタントを要請して事前講座を行ったり、活動の様子を公民館報で紹介するなどして、活動が地域に根づき、広がるよう工夫しています。



学校の特質をいかして  
夜間定時制高校で奉仕の授  
業を実践する中で、防犯・防  
火を呼びかけながら市内を  
巡回する「夜回り」を行っ  
ています。地域の人々を招い  
て交流会を行うなど、地域と  
連携した活動を進めています。

●活動領域 ④ 家庭 ④ 学校 ④ 地域 ④ 企業 ●3つのこころ 自分に 他者に 社会に  
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

## 地域と連携し、「奉仕」の授業で夜回りを 夜間定時制高校での 「奉仕」の授業実践

### 活動内容の紹介

#### 夜間定時制高校での奉仕の授業実践

松浦明博さんは、夜間定時制高校の主幹教諭として、生徒に社会の一員としての自覚を持たせ、人に喜ばれることを自分の喜びにできるよう、奉仕の授業を実践しました。奉仕体験活動は、夜間定時高校の特質をいかした「夜回り」で、夏期と歳末の年2回、生徒たちは消防署や町内会の人々と一緒に、防火・防犯を呼びかけながら市内を巡回しました。活動実践にあたっては、市役所・消防署・警察署・町内会などとの連携を密にとり、生徒の意識を高める工夫をしながら進められました。

#### 地域との連携などにより、生徒のやる気を喚起

社会の授業とリンクさせたり、事前に地域の人々や奉仕活動を体験した先輩と交流会を行うなどの工夫により、奉仕活動に意欲を持たない多くの生徒の意識を高め、問題を起こすことなく成功に導くことができました。「夜回り」は、生徒たちが社会に役立つ活動を体験し、また地域の人々との交流により礼儀や生き方についても学ぶ機会となりました。活動は地域に喜ばれ、連携団体や保護者からも高い評価を受けました。高校生の奉仕活動が全国に波及することを願い、活動を進めています。

TEL：080-3156-1445 / E-mail：akihiro\_matuura320906@yahoo.co.jp

### 参加した子どもの声

- 最初は、なんでこんなことやらせるのかイヤでイヤで仕方がなかった。が、やっていると途中でふと思った。1円にもならないのに、町会のお年寄りの人たちは地域のためにがんばってる。なのにオレたち若いもんが、文句ばっか言って遊んでてイイのかって…。今、ボランティアをやってみようと、すごく思っている。

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

生徒たちの意識を高めるために、町内会や自治会で防火・防犯活動を行っている人を招き、ボランティア活動を始めた動機や活動の喜びなどを話してもらう交流会を実施しました。また救急救命法の学習などとも関連づけたり、奉仕のテキストや新聞、DVDを使った授業を通してやる気を喚起させていきました。「夜回り」の最後には、消防署の隊長さんより防災に関する訓示を受け、多くの生徒が礼儀を正し取り組むことができました。市役所、警察署からも自発的に参加者が加わり、地域に活動の輪が広がりました。

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのこころ 自分に 他者に 社会に  
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

## 三世代で楽しみながら、伝承文化に触れる

### 「歌と遊びの会」による 文化の伝承活動

#### 活動内容の紹介

子どもたちとその親、地域の高齢者の三世代で、歌や遊びを楽しみながら伝承文化に触れる「歌と遊びの会」を実施しています。会では、紙芝居や竹細工、季節の歌や地域の歴史を語るなどして、自然や郷土を大切にすることを育んでいます。学校への出前講座など、地域に根づいた活動を11年間続けています。



三世代で楽しめる会  
「竹の子1本くださいな」など、歌や遊びを楽しめるプログラムを実施。



子どもたちに活躍の場を  
子どもたちを対象に、紙芝居上演や獅子舞の指導も。藤の台小学校の紙芝居上演で、読み手は3年生。

#### 3つの工夫

##### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

会で使用する歌は、季節に合わせて三世代みんな楽しく歌えるものを選曲しています。以前に地域で踊られていた「鶴川音頭」を復活させ、子どもたちに教えることで、幅広い世代に郷土への愛を伝えています。学校や学童保育への出前講座、教材の貸し出しなどを行い、活動を広げています。

TEL / FAX : 042-735-4743 E-mail : yukisakura1026@yahoo.co.jp (協力者 宮本)

●活動領域 家庭 学校 地域 企業 ●3つのこころ 自分に 他者に 社会に  
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

## 未来に生きる子どもへ伝える自分史

### 自分史を語り日本人の 心の遺産を伝える活動

#### 活動内容の紹介

自身の人生体験をつづった紙芝居やDVDなどを通して、子どもたちに困難を乗り越える強い“心”、思いやりのあるやさしい“心”など、大切な心のあり方(あおいくまの心)を伝えています。その活動場所は学校や公民館など多方面にわたり、上映会を子どもと大人と一緒に見ること、共に考え話し合う機会を提供しています。

#### 【あおいくまの心】

あきらめない  
おこらない  
いばらない  
くさらない  
まけない



心のあり方について、親子で考える場を提供  
自身の人生経験から、大切な心のあり方を語る紙芝居やDVDの上映会を、家庭・学校・公民館などで行っています。

#### 3つの工夫

##### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

ただ紙芝居やDVDを上映するだけでなく、体験者として直接子どもたちに語りかけ、また子どもたちからも質問を受けたり、意見や感想を聞いています。家庭・学校・公民館・老人ホーム・寺院など、さまざまな場所で上映会を行っています。賛同する協力者を得て、活動の発展を目指しています。

TEL : 0774-33-6117 (代理080-3867-7967)



## 子どもたちの「こころを育む活動」 2008年度受賞者 この一年(2009年)の活動報告

全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む」活動を

支援する全国運動は、2008年度よりスタートいたしました。

第一回である08年度は、奨励賞に6団体と個人1名、個人賞に1名

ブロック大賞に6団体(中国・四国ブロックの「森と海の学校」はさらに特別賞を受賞)、

全国大賞に1団体の計13団体・2名が優秀事例として表彰されました。

08年度に受賞された皆さんは、さらに活動の輪を広げたり、

新たな領域に踏み出したりと、現在も「こころを育む」活動への取り組みを続けています。

08年度受賞団体・個人について、受賞対象となった活動と、

受賞後の活動をご紹介します。



# 全国大賞

■社団法人 群馬県助産師会 (群馬県)

所在地：〒373-0018 群馬県太田市丸山町 250-7  
TEL/FAX：0276-37-5198 E-mail:s.mide@jeans.ocn.ne.jp  
代表：鈴木 せい子

## 助産師による「いのちの大切さを伝える」出前講座

### 子どもの自己肯定感を育む、「いのちの講座」

群馬県助産師会のメンバーが主に群馬県内の小・中学校に出向き、子どもと保護者・教職員を対象に「いのちの大切さを伝える」出前講座を行っています。講座は、いのちのかけがえのなさ、大切さ、素晴らしさを伝え、子どもたちの自尊感情・自己肯定感を培うことを目的としています。子どもたちは、奇跡的に生まれた尊いいのちであること、家族に望まれて生まれてきたことなどを実感し、自分の存在を大切に思うこと、そして他の人も大切にすることなどを学んでいます。講座は県や市の公的事業に認められ、学校の授業として行われており、年間約10,000人の子どもと7,000人の保護者が体験しています。



オリジナルのお産模擬体験教材で、生まれる瞬間を疑似体験。

### 心と体で実感させる、講座の構成

講座は、「自分にとってひとつしかない、いのちのルーツをたずねる旅」として構成され、手作りの胎児人形などオリジナルの教材を使った体験学習を主体に、頭で理解するのではなく心で実感できるよう工夫されています。



本物と同じ大きさ・重さの胎児人形で、成長する力を体感。



最後に「生きてるだけで100点満点」という言葉を贈ります。

### 3つの工夫

#### 進める工夫

いのちの大切さを伝え、自尊感情・自己肯定感を培うことを目的に、講座を行っています。専門家の分析を受けるなどし、講座内容の向上を目指しています。学校に理解と協力を得るために、念入りな打ち合わせを行っています。

#### 広げる工夫

複数の助産師で毎年100校以上に出向いています。講座を広げるために他県助産師会と連携し、ノウハウを伝えるための研修会や講座の実施、教材の提供などを行っています。教育委員会や学校、PTAとも連携を進めています。

#### 続ける工夫

県や市に公的事業と認められたことで、講座を学校の授業として行うことが可能になり、多くの子どもと保護者の参加を実現しています。県をはじめ、学校やPTAの協力、助産師会メンバーの組織力で、活動が継続しています。

### 2009年の活動

#### 第61回保健文化賞を受賞

「いのちの大切さを伝える出前講座」事業、産婦・新生児訪問などの母子保健事業、地域母子支援センターでの無料電話相談事業などの実績が、時代が求める母子保健の向上に貢献していると認められ、第61回保健文化賞を受賞しました。



出前講座などの活動実績が高く評価されました。

#### 受賞記念事業、朗読劇「ハッピーバースデー」

2月に群馬県民会館にて、群馬県助産師会設立50周年と、こころを育む総合フォーラム全国大賞および保健文化賞の受賞記念事業として、朗読劇「ハッピーバースデー」公演を行いました。公演は、二つの賞の副賞計300万円を、命の尊さを伝える事業を行うことで社会に還元しようと企画したものです。



多くの声優が出演し、命を家族を問はず、話題の朗読劇です。

## 特別賞 ブロック大賞 (中国・四国ブロック)

NPO法人 森と海の学校 (山口県)

### 「子ども自然体験キャンプ」「ジュニア洋上スクール」事業による「親からの手紙」と青少年指導者の育成

#### 家族や仲間の大切さを、心身で学ぶ野外研修

冒険心あふれる子どもと青少年指導者の育成を目的に、「子ども自然体験キャンプ」などの野外研修の実施を26年間続けています。研修中は、家族の絆を深める「親からの手紙」など独自プログラムを行っています。研修の企画・運営は高校生・大学生指導員中心に行われており、青少年の社会参加の場ともなっています。

#### 2009年の活動

##### 「子ども自然体験キャンプ」「ジュニア洋上スクール」実施

「いのちの大切さを伝える出前講座」事業、産婦・新生児訪問などの母子保健事業、地域母子支援センターでの無料電話相談事業などの実績が、時代が求める母子保健の向上に貢献していると認められ、第61回保健文化賞を受賞しました。



第20回ジュニア洋上スクールin 沖縄・渡嘉敷島。

所在地：〒759-0206 山口県宇部市大字東須恵 1271-15 TEL：0836-41-5435 FAX：0836-44-4423 E-mail：seiji@okamura21.com  
代表者：岡村 精二 担当者：岡村 里美

## ブロック大賞 (北海道・東北ブロック)

あじ島冒険楽校 (宮城県)

### 「昔の子どもたち」から「未来の大人たち」へ「島の夏休み」を伝えたい

#### 限界集落へ「未来の子どもたち」がくれた元気

「昔の子どもたち」(島の高齢者)が先生となり、「未来の大人たち」(島外の小中学生)に、島伝統の魚釣りや懐かしい昔の遊びを指導し、昭和30年代の「島の夏休み」を体験させる自然体験プログラムを行っています。活動を通して、限界集落となり未来が見えにくくなってしまった網地島の誇りを取り戻し、島の再生を図ることを目的としています。

#### 2009年の活動

##### 小・中学校の受け入れ開始で、参加者に広がり

2009年は3コースを開催し、約100名の子どもたちが参加しました。さらに学校受け入れを開始し、「子ども農山漁村交流プロジェクト」で寄磯小学校の受け入れを実施。子どもたちは島伝統の魚釣りなどを楽しみ、島の高齢者と交流を深めました。学校受け入れで参加者に広がりが生まれ、網地島の現状を知ってもらえる機会が増えています。今後も受け入れを積極的に行う予定です。



「ながぐつ先生」こと高橋和吉先生の網地島植物教室。

所在地：〒986-2525 宮城県石巻市長渡浜姥婆 15 TEL：0225-49-2126 E-mail：marukin@mbj.nifty.com HP：http://plaza.rakuten.co.jp/ajisima  
代表者：小野 勝吉 担当者：阿部 欽一郎

## ブロック大賞 (関東ブロック)

足立区立第十一中学校 開かれた学校づくり協議会 (東京都)

### 「花むすび」「中学校を拠点とする“地域づくり”“学校づくり” “こどもほめ育て”の地域ぐるみの取り組み」

#### 学校を拠点に、育ち合う地域づくりを

地域・学校・PTAが連携し、「地域づくり」「学校づくり」「こどもほめ育て」を三位一体として進める活動に取り組んでいます。花と「ありがとう」という言葉の交換を通して、子どもと学校に対する地域の関心を高め、また子どもの豊かな心を育てることを目指す「花の駅」活動など、さまざまな活動に多くの生徒と地域の人々、高齢者が参加しています。

#### 2009年の活動

##### 「十一中農園」などで、さらに広がる活動の輪

食育の一環として、「十一中農園」の試験的活動を開始。収穫には地域の人々に参加してもらい、また野菜は参加者や近隣の人に配布するなどし、地域と交流を深める機会になりました。地域の小学校3校との小中連携事業「はがき一葉のありがとうコンクール」は6回目を迎え1900名もの応募を得て、表彰式では多くの人が集まり喜びを分かち合いました。



きゅうりやミニトマトを収穫することができました。

所在地：〒120-0013 東京都足立区弘道 1-38-15 足立区立第十一中学校内 TEL：03-3887-8191 FAX：03-3887-8192  
E-mail：ichikawa0835@key.ocn.ne.jp 代表者：遠藤 光彦 担当者：市川 昭

## ブロック大賞 (中部ブロック)

少年少女合唱団マーレ (福井県)

### 歌声体験交流活動

#### 歌声で地域をむすぶ、多彩な体験交流活動

歌を通して子どもたちの居場所をつくること、また共に歌うこと、美しい響きを共有する喜びを子どもたちに感じてもらうことを目的に、地域を巻き込んだ活動を行っています。実体験の感動を歌うミュージカルや、異世代グループとの交流コンサートなどさまざまな体験を得て、子どもたちは豊かな感受性を育み、地域や環境へも視野を広げています。

#### 2009年の活動

#### 「子どもたちの老年体験&高齢者といっしょの歌声交流会」を開催

子どもたちに高齢者への理解を深めてもらおうと、12月に「子どもたちの老年体験&高齢者といっしょの歌声交流会」を開催。介護の活動に取り組んでいるNPOを招き、耳栓や特殊眼鏡などをつけ、高齢者の生活を知る「老年体験」を実施しました。また、世代間交流の一環として、高齢者のコーラスグループなど計6団体が歌声交流会を行いました。



「夕焼小焼け」などわらべうたを集めたメドレーも。

所在地：〒914-0124 福井県敦賀市市野々 6-2-2 第二早翠幼稚園内 TEL：0770-21-0002 FAX：0770-21-0022  
E-mail：mare@samidori.ed.jp HP：http://www.samidori.ed.jp/mare/index.html 代表者：赤谷 尚実 担当者：徳本 範子

## ブロック大賞 (近畿ブロック)

特定非営利活動法人 ふれあいネットひらかた (大阪府)

### 商店街の空き店舗を活用し、食育をテーマとした小学生の居場所づくり「キッズ・キッチン」

#### 食育を通じた、子どもを見守る地域づくり

学童保育と料理教室を組み合わせた「キッズ・キッチン」を運営し、食育の啓発活動や交流の場の提供を行っています。地元商店街の空き店舗を活用して、小学校6年生までの子どもを夜7時まで預かり夕食の場を提供することで、保護者の要望に応えた子どもの居場所づくりを実現。子育てを支援する地域社会の構築を目指し、活動を続けています。

#### 2009年の活動

#### 継続した活動によりネットワークが拡大

「小学生のキッズ・キッチン」「幼児のためのチャレンジクッキング教室」の定期的開催に加えて、「親子で学ぶ農業体験教室2009」や、保育園での「食育の楽しいお話し会」などを実施。4年間の継続した取り組みで、行政、幼稚園、保育園、小学校、商店街、農家、企業、地域、家庭との連携が進み、子どもの食育を支えるネットワークが広がっています。



親子で楽しみながら、食について学ぶ機会に。

所在地：〒573-1144 大阪府枚方市牧野本町 2-19-2 長村ビル1階 TEL/FAX：072-397-2111 E-mail：yu715jp@yahoo.co.jp  
HP：http://www.shokuiiku-station.com/ 代表者(担当者)：野村 由賀里

## ブロック大賞 (九州・沖縄ブロック)

KSVN (嘉瀬小学校ボランティアネットワーク) (佐賀県)

### 「どようひろば」

#### 学校を、子どもと大人が集う「ひろば」に

嘉瀬小学校の施設開放事業を受け、事業の企画運営を行うボランティア組織としてさまざまな活動を行っています。学校を拠点に子どもと大人の居場所を組み合わせた遊びと交流の場、「どようひろば」事業では、教職員と保護者、地域住民間の信頼関係が深まり、子どもたちを見守る大人たちによる幅広いネットワークが構築されています。

#### 2009年の活動

#### 「どようひろば」を核に、地域コミュニティの創設へ

丸つけボランティアや藍染め体験教室を行う「学習支援部」、登下校時に子どもたちを見守る「子ども見守り部」など、学校応援団としてさまざまな活動部が形成され、KSVNはそれらを包括する組織となりました。「どようひろば」にとどまらず、学校や地域と連携した地域コミュニティ創設を目指して、発展した活動が進められています。



6年生と手芸クラブの子どもを対象に藍染め体験教室を。

所在地：〒840-0863 佐賀県佐賀市嘉瀬町大字十五 12-1 (佐賀市立嘉瀬小学校内) TEL：0952-23-6400 FAX：0952-23-6427  
E-mail：skase@city.saga.lg.jp HP：http://www2.saga-ed.jp/school/edq10107/ 代表者：今泉 正喜 担当者：村岡 智彦、船津 智

## 個人賞

金杉 朋子(東京都)

### アイデンティティ形成に向け、高校生が自己表現する倫理の授業実践 ～「かけがえなさを認め合う場」としてのクラスの可能性～

高校3年生の倫理の授業で、「私という存在」というテーマで自分を表現する発表を行う「アイデンティティ形成支援に向けた表現教育プログラム」を継続して実施しています。自分を見つめ、他者を知る体験などから、それぞれの「かけがえのなさ」を認め合う活動です。

TEL / FAX：03-3721-4808  
E-mail：kanasugiga@gmail.com

## 奨励賞(北海道・東北ブロック)

くしろゴールデンシアターきらり座(北海道)

### キッズと高齢者のコラボ劇 「おじいちゃんと話そうよ」

手作りの劇を通して、地域のお年寄りを元気づけ、生きがいを感じられる場を提供しながら、子どもたちとあたたかい交流を続けています。観客との対話を取り入れるなど、内容のさらなる充実を図った「おじいちゃんと話そうよ パート2」を制作中です。

所在地：〒085-0007 北海道釧路市堀川町 8-3 佐藤方(事務局)  
TEL / FAX：0154-24-7663  
E-mail：sinnpou@purple.plala.or.jp  
代表者(世話役)：木皿 洋子 担当者：佐藤 伸邦

## 奨励賞(中部ブロック)

特定非営利活動法人 リトミック Gifu(岐阜県)

### 小学生の土曜日居場所づくり 「表現のワークショップ&ミュージカル」

リトミックを利用したワークショップや創作ミュージカルにより、子どもたちは多くを学び、体で表現する喜びを体験しています。さらに子育て支援に力を入れ、乳幼児～指導者対象のワークショップを実施したり、親子ふれあいコンサートなども計画しています。

所在地：〒503-0808 岐阜県大垣市三塚町 501-1  
TEL：0584-78-9598 FAX：0584-47-5052  
E-mail：dezaki82@yahoo.co.jp HP：http://www.rito-gifu.net/  
代表者(担当者)：出崎 恭子

## 奨励賞(中国・四国ブロック)

夢配達人プロジェクト神石高原町実行委員会(広島県)

### 神石高原町を舞台にした絵本が作りたい

子どもの絵本作家に手伝ってもらい、町を舞台にした絵本を作りたい」という夢から、小学生、学校、保護者、行政が「団結し、絵本制作が行われました。現在は、「神楽の“おろち”を作りたい」という新たな夢に向かい、指導者の協力を得て活動が進められています。

所在地：〒720-1522 広島県神石郡神石高原町小島 2025  
TEL：0847-89-3344 FAX：0847-85-2227  
E-mail：jk-kyoiku@town.jinsekikogen.hiroshima.jp  
代表者：木野山 孝志 担当者：野村 俊英

## 奨励賞(個人)

向井 哲朗(鳥取県)

### 「泳げる中海を取り戻す」

身近に出来る水質浄化活動を機軸に、リサイクルの実践、小さな環境活動を積み重ねる

地域の子どもたちと彦名地区チビッ子環境パトロール隊」を結成し、「泳げる中海を取り戻す」ことを目標にさまざまな活動を行っています。さらに、親子で参加する環境パトロールやエコクッキングなど、環境保全を機軸とした多角的な活動を続けています。

TEL / FAX：0859-29-3974  
E-mail：hsmrs477@ybb.ne.jp

## 奨励賞(関東ブロック)

越谷市立大沢小学校(埼玉県)

### 自分をみつめ、よりよく生きようとする児童の育成

よりよく生きようとする道徳的心情や判断力、実践力を育むことを目的とし、道徳の時間を中心に全教育活動において、意識の流れを大切に「総合単元的」道徳教育を推進。20年以上続く道徳教育の研究・実践に、学校・家庭・地域が一体となり取り組んでいます。

所在地：〒343-0025 埼玉県越谷市大沢 2-13-1  
TEL：048-974-8522 FAX：048-974-8521  
E-mail：osawa-e@school.city.koshigaya.saitama.jp  
HP：http://school.city.koshigaya.saitama.jp/osawa-e  
代表者：金澤 勝幸

## 奨励賞(近畿ブロック)

財団法人 山本能楽会(大阪府)

### 「アートによる能案内」と「能と遊ぼう!」

造形遊びを通して創造的な能の世界観を体験する、小学生を対象としたワークショップ「アートによる能案内」などを行っています。さらに、郷土の歴史をテーマにした新作能「水の輪」の制作・公演など、能とより深く関わることができる発展した活動を進めています。

所在地：〒540-0025 大阪府大阪市中央区徳井町 1-3-6  
TEL：06-6943-9454 FAX：06-6942-5744  
E-mail：info@noh-theater.com HP：http://www.noh-theater.com  
代表者：山本 旭彦 担当者：山本 佳誌枝

## 奨励賞(九州・沖縄ブロック)

久米島ホテルの会(沖縄県)

### ホテル舞い飛ぶ久米島の島づくり

ホテルが棲む環境を蘇らせる活動を通して、自然環境の大切さを伝えるためにさまざまな活動を続けています。さらに、「花王・みんなの森づくり活動」や、カンジダム自然浄化への取り組み、企業研修の受け入れなど、環境をテーマに活動を大きく広げています。

所在地：〒901-3123 沖縄県島尻郡久米島大字大田 420  
TEL/FAX：098-896-7100  
E-mail：kumehotaru@yahoo.co.jp HP：http://www.kumehotaruokai.com  
代表者：宇江原 総清 担当者：佐藤 直美